

# 平成28年度 業務実績報告書

平成29年6月  
公立大学法人九州歯科大学

## 法人の概要

1. 基本的情報	
法人名	公立大学法人 九州歯科大学
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目6番1号
設立の根拠となる法律	地方独立行政法人法
設立団体	福岡県
平成28年度 業務実績	
沿革	<p>大正 3年(1914)4月 私立九州歯科医学校(2年制)を創設            10年(1921)4月 九州歯科医学専門学校(4年制)に昇格            昭和19年(1944)4月 福岡県に移管、医学科を設置し福岡県立医学歯学専門学校に改称            (昭和22年4月医学科廃止)            24年(1949)4月 九州歯科大学に昇格            平成18年(2006)4月 公立大学法人九州歯科大学を設立            22年(2010)4月 口腔保健学科を創設            26年(2014)5月 創立百周年記念式典を開催</p>
法人の目標	<p>公立大学法人九州歯科大学では、豊かな人間性と探求心を育む歯科医学教育を学生に提供し、的確な判断力と高い技術力のもとより、乳幼児から高齢者まで、あらゆる世代の健康管理が行える歯科医師及び歯科衛生士を育成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育: 歯科保健医療の分野において活躍する優秀な医療人を育成する。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の発展に貢献する歯科医師及び歯科衛生士の育成</li> <li>・適性のある優秀な人材の確保・育成</li> <li>・教育の質の改善</li> <li>・学生への支援</li> </ul> </li> <li>2. 研究: 大学の教育や社会の発展に役立つ研究を推進する。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究水準並びに研究成果の向上</li> </ul> </li> <li>3. 社会貢献: 大学の保有する人材、知識、施設等を社会のために活用する。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域社会への貢献及び国際交流に関する体制の構築・実施</li> </ul> </li> <li>4. 業務運営: 理事長のリーダーシップのもと、主体的・自律的な大学運営を確立する。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・運営体制の改善</li> <li>・人事の適正化</li> </ul> </li> <li>5. 財務: 経営者の視点に立って、法人の財政運営を行う。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己収入の増加</li> <li>・経費の抑制</li> <li>・附属病院経営の改善</li> </ul> </li> <li>6. 評価及び情報公開: 評価を厳正に実施し、大学運営に反映する。また、大学情報を積極的に公開する。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・評価の充実</li> <li>・情報の公開等の推進</li> </ul> </li> </ol>

法人の業務	1. 九州歯科大学を設置し、これを運営すること。 2. 学生に対し、修学、進路選択及び心身の健康等に関する相談その他の援助を行うこと。 3. 法人以外の者から委託を受け、又はこれと共同して行う研究の実施その他の法人以外の者との連携による教育研究活動を行うこと。 4. 公開講座の開設その他の学生以外の者に対する学習の機会を提供すること。 5. 教育研究の成果を普及し、及びその活用を促進すること。 6. 前各号の業務に附帯する業務を行うこと。
-------	--

## 2. 組織・人員情報

### (1)役員

役員の数、公立大学法人九州歯科大学定款第7条の規定により、理事長1人、副理事長1人、理事5人以内、監事2人と定めている。また役員任期は、同定款第11条の規定に定めるところによる。

役職	氏名	任期	主な経歴
理事長(学長)	西原 達次	平成28年4月1日～平成30年3月31日	九州歯科大学 学長
副理事長	久藤 元	平成28年4月1日～平成30年3月31日	元 米国安川電機 取締役会長
常務理事(事務局長)	林 正博	平成28年4月1日～平成30年3月31日	九州歯科大学 事務局長
理事(学外)	國武 豊喜	平成28年4月1日～平成30年3月31日	北九州産業学術推進機構 顧問
理事(学外)	利島 康司	平成28年4月1日～平成30年3月31日	北九州商工会議所 会頭
理事(学内)	富永 和宏	平成28年4月1日～平成30年3月31日	附属病院長 (顎顔面外科学分野教授)
理事(学内)	日高 勝美	平成28年4月1日～平成30年3月31日	副学長 (口腔保健学科教授)
監事	服部 弘昭	平成28年4月1日～平成30年3月31日	ナリッジ共同法律事務所 弁護士
監事	松木 摩耶子	平成28年4月1日～平成30年3月31日	松木公認会計士事務所 公認会計士

### (2)教員

			平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
教員数	常勤(正規)		120人	120人	121人	121人	121人	120人
	内訳	教授	26人	26人	27人	27人	30人	28人
		准教授	20人	19人	21人	21人	22人	19人
		講師	8人	8人	12人	11人	15人	18人
		助教	66人	67人	61人	65人	54人	55人
		助手	-	-	-	-	-	-
	非常勤講師		173人	196人	203人	210人	166人	148人
合計		293人	316人	324人	331人	287人	268人	

#### 教員数増減の主な理由

常勤教員によって行う授業数の増加に伴う非常勤講師の減少。

(3)職員							平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
職員数	事務局長		1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	1人	
	正規職員	県派遣	36人	33人	31人	24人	22人	17人				
		プロパー	24人	32人	37人	51人	53人	56人				
		他団体派遣	人	人	人	人	人	人				
		その他	人	人	人	人	人	人				
		計	60人	65人	68人	75人	75人	73人				
	嘱託(常勤・非常勤)等・臨時	61人	61人	70人	55人	59人	59人					
	合計	122人	127人	139人	131人	135人	133人					
職員数増減の主な理由							プロパー職員(事務職・技術職)の採用に伴い、県派遣職員(事務職)及び嘱託職員(技術職)が減少している。					
(4)法人の組織構成							歯学部、附属病院、附属図書館、大学院歯学研究科、事務局					
3. 学生に関する情報												
関連する 学部・大学 院	学部学科、大学院研究科	収容定員 (a)	収容数 (b)	定員充足率 (b)/(a)×100	定員充足率の推移 (%)							
					23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度		
大学	計	776人	772人	99%	94	94	96	95	97	99		
内訳	歯学部	670人	674人	100%	99	99	102	100	101	100		
	歯学科	570人	575人	100%	99	99	102	101	102	100		
	口腔保健学科	100人	99人	99%	100	100	99	98	98	99		
	大学院 歯学研究科	106名	98人	92%	72	65	63	75	86	92		
収容定員と収容数に差がある場合の主な理由							大学院: 大学院に進み研究を志す学生が減少する傾向にあり、定員に満たない入学状況が続いていたことによるもの。					

4. 審議機関情報			
(1)経営協議会			
区分	氏名	任期	現職
理事長	西原 達次	平成28年4月1日～平成30年3月31日	九州歯科大学 理事長
副理事長	久藤 元	平成28年4月1日～平成30年3月31日	九州歯科大学 副理事長
学外委員	片山 幹夫	平成28年4月1日～平成30年3月31日	九州歯科大学同窓会 会長
	木瀬 照雄	平成28年4月1日～平成30年3月31日	TOTO株式会社 相談役
	固谷 寛	平成28年4月1日～平成30年3月31日	福岡県立小倉高等学校 校長
	土橋 卓也	平成28年4月1日～平成30年3月31日	製鉄記念八幡病院 理事長
	西田 幸生	平成28年4月1日～平成30年3月31日	北九州市企画調整局長
	西野 憲史	平成28年4月1日～平成30年3月31日	西野病院 理事長
	長谷 宏一	平成28年4月1日～平成30年3月31日	福岡県歯科医師会 会長
(2)教育研究協議会			
区分	氏名	任期	現職
学長(理事長)	西原 達次	平成28年4月1日～平成30年3月31日	九州歯科大学 学長
学部長	木尾 哲朗	平成28年4月1日～平成30年3月31日	九州歯科大学 歯学部長、副学長
学内組織の長	林 正博	平成28年4月1日～平成30年3月31日	九州歯科大学 事務局長
	日高 勝美	平成28年4月1日～平成30年3月31日	九州歯科大学 副学長
	鱒見 進一	平成28年4月1日～平成30年3月31日	九州歯科大学 副学長
	富永 和宏	平成28年4月1日～平成30年3月31日	九州歯科大学 附属病院長
	牧 憲司	平成28年4月1日～平成30年3月31日	九州歯科大学 附属図書館長
	北村 知昭	平成28年4月1日～平成30年3月31日	九州歯科大学 大学院歯学研究科長

法人自己評価	評価委員会意見・コメント等
<p>I 全体</p> <p>本学は、全国唯一の公立歯科大学であるという特色を活かし、高度な専門性を持った歯科医療人を育成することを重要視し、特色のある教育や地域社会の発展に役立つ研究を推進する等の目標を掲げたところである。 この実現に向け、理事長の強いリーダーシップのもと、それぞれの組織、役職の役割を明確にするとともに、主体的、自立的な大学運営を進めるガバナンス体制を整備し、経営者の立場に立った適正な財政運営、厳正な評価の実施、積極的な情報公開等に取り組んできた結果、計画に掲げた事項については、概ね達成することができた。</p> <p>平成28年度 業務実績報告書(様式)</p> <p>1 教育</p> <p>歯科医学教育センターの主導のもとアウトカム基盤型教育へのシフトを実施した。アウトカム基盤型教育を実施することから、歯科医療人教育の質保証を推進していること、また、入学試験・国家試験の分析結果に基づき教育内容のさらなる改善を行うことなど、教員の認識を高めるためにFDを実施した。 大学間連携共同教育推進事業で実施する単位互換認定者数は毎年度50人を超え順調に推移しており、大学機関別認証評価において高い評価を得ている。 受験生に向けたオープンキャンパスに併せて、進路指導教諭を対象とした大学施設見学会を実施するなど、優れた資質・高い意欲を持った学生の確保を図った。 学生支援の面では、就職支援会議において組織的な対応を行ったことで、口腔保健学科は4年連続で就職率100%を達成することができた。</p> <p>2 研究</p> <p>文部科学省補助金事業「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COCプラス)」に連携校として参加継続し、福岡県と協働で高齢者のQOL支援に係る実践的教育や地元企業との連携によるビジネス創生を推進した。 教員個人による外部資金の獲得については、科学研究費が72件採択され、目標を上回った。 各教員の研究活動の中で、客観的評価の高い研究内容や、大学が推進する研究成果をホームページで積極的に公開した。また、研究成果を知的財産の観点から検証する発明委員会を3回開催し、研究成果の社会における活用に努めた。</p> <p>3 社会貢献</p> <p>口腔保健・健康長寿推進センターを開所し、北九州市の6歯科医師会と連携して地域歯科医療従事者に対し、講演と実習を主体にした地域包括医療に関するセミナー(リカレント教育)を実施し、非常に高い満足度に加え、非常に高い学習効果が得られた。 地域社会への貢献に関しては、公開講座等を11回実施し、地域住民に研究成果等の有用な情報発信を行った。 九州歯科大学基金を活用して、学術交流協定締結校と本格的な学術交流を展開した。大学院にタイのシーナカリンウィロート大学から1名の学生が入学し、博士(歯学)修得に向けて励んでいる。また、本学の正規の単位認定選択科目として短期派遣プログラムの実施及び学術交流協定締結校の学部学生の短期受け入れを実施した。</p> <p>4 業務運営</p> <p>CIOである副理事長のもと、情報セキュリティポリシーの運用・検証を充実し、教職員に対して周知に努めたところ、セキュリティ上の問題は生じず、周知の効果が認められた。 医事システムを活用して診療科間の連携体制の強化を図るため、新たに電子カルテシステムを導入し運用を開始し、平成29年度以降に教育、診療の充実に活かすことが可能となった。</p>	

## 5 財務

外部研究資金獲得に積極的に取り組み、個人研究費については高水準を維持することができた。  
附属病院については、先進医療1件の申請を継続して行うとともに、新規に1件申請を行った。また、高度な医療を提供する自費診療の推進を行った。口腔保健・健康長寿推進センターを開所したことから、地域歯科医師会・開業歯科医師と地域に潜在する摂食嚥下障害患者に関する情報交換を行うことができた。訪問診療については、引き続き力を入れて行った結果、達成目標を大幅に上回る診療が実施された。

## 6 評価及び情報公開

学内組織(学部、大学院、附属機関)の見直し、九州歯科大学大学憲章の制定に伴う教育改編の内容を評価機関が示す各基準に的確に反映させ、認証評価に係る自己評価書を作成した結果、大学改革支援・学位授与機構が実施する大学機関別認証評価及び大学機関別選択評価において、優れた評価結果を得ることができた。また、平成28年度においても自己評価部会が経年的に実施してきた教職員、学生及び卒業生に対するアンケート調査結果を自己評価書の根拠資料として活用し、継続して調査を行った。

### Ⅲ 中期目標に掲げている「重点事項」の取組状況について

「地域の歯科保健医療に貢献する医療人を育成するための教育を推進する。」

学長主導による歯科医学教育センターで作成したロードマップとカリキュラムマップに従い、アウトカム基盤型教育へのシフトを実施した。また、副学長を中心にFD活動を展開し、アウトカム基盤型教育や歯科医療人教育の質保証を取り上げるなど、教育の改善について教員全体で意識を高めた。このような教育の改革を進め、プロフェッションとしての歯科医療人の輩出に努めた。

「特色ある地域歯科保健医療活動を展開し、地域社会に貢献する。」

口腔保健・健康長寿推進センターを開所したことにより、地域歯科医療従事者に対し、地域包括医療におけるリカレント教育を実施した。リカレント教育の内容としては、重篤な全身疾患を有する患者の質の高い安全な歯科治療を実現するためのリスクマネジメント、及び地域に在住する摂食嚥下障害患者に対するアプローチを行うための実践的教育を主要なテーマとして、講義と実習の形でリカレント教育を実施した。

「専門性を備えた人材の確保・育成を図り、事務局機能を強化する。」

県の派遣職員に依存せず、自立的な大学運営を図っていけるよう、OJTが機能する組織を目指した。SDの実施や外部研修へ積極的に派遣するだけでなく、専門的に研究費事務、国庫補助事業の事務処理等を行う職員を配置するなど、計画的な人事異動を行うことで職員の育成を図った。また、情報セキュリティ意識の向上を促す取り組み及びシステムの更新を企画広報班に配置した情報処理専門プロパー職員が中心となって行った。

「全国唯一の公立歯科大学としてのブランドイメージを確固たるものにする。」

創立百周年を機に次なる世紀に向けて新たな大学づくりに踏み出すにあたり、「九州歯科大学憲章」を制定し、ホームページでの掲載やリーフレットの配布など学外への積極的な配信し、ブランドイメージの定着を図った。また、口腔保健・健康長寿推進センターを開所し、地域歯科医療従事者に対し地域包括医療におけるリカレント教育を実施し、地域医療の中核的役割を果たした。

## 年度計画項目別評価

中期目標 1. 教育	<p>「歯科保健医療の分野において活躍する優秀な医療人を育成する。」</p> <p>(1)特色ある教育の展開 九州歯科大学は、歯科保健医療の高度な専門的知識・技術を教授するとともに、高齢者の治療や健康管理指導ができる能力、患者の痛みを理解し信頼関係を築くことができるコミュニケーション能力を育成するための教育を実施する。</p> <p>(2)教員の教育能力の向上 教員の教育能力向上と教育活動の活性化を図るため、効果的なファカルティ・ディベロップメント(FD)等の組織的な取組を推進するとともに、授業評価システムを充実させ授業改善に活用する。</p> <p>(3)意欲ある学生の確保 明確な入学者受入れ方針のもと、志願者動向の分析等を踏まえた、より効果的・戦略的な広報活動を展開し大学の魅力を広く伝えるとともに、入試方法の継続的な点検・見直し、高大連携の推進などにより、大学が求める資質を持ち、学ぶ意欲の高い学生を選抜する。</p> <p>(4)学生支援の充実 学生の自主的・多面的な学習の支援、健康で充実した学生生活を送るための支援、自立した社会人・職業人となるための支援など、学生ニーズや社会状況を踏まえた学生支援体制の整備・充実を図る。</p>
---------------	---

項目	実施事項	平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号		
					評価	理由				
1. 地域の歯科保健医療に貢献する歯科医師及び歯科衛生士の育成 1. 授業要綱の検証と改善 2. 成績評価基準の明確化 3. 教育の効果・成果の検証	【初年次教育の改編・充実】 ①初年次教育で、歯科医療人としての職務を体験させ、プロフェッショナルとしての自覚を高めるような教育カリキュラムを作成する。  ○達成目標 ・学生の成績：平均GPA2.5以上(満点4)	1-1	1	<p>【平成28年度計画】</p> <p>○歯学科および口腔保健学科の1年次に実施している学外宿泊研修に対する学生からの評価が高く、歯学科4年次で実施している学外宿泊研修との連携においても良好な教育効果が確認された。その結果を踏まえ、この学外宿泊研修をプロフェッショナルズ醸成科目の視点で、単独科目として開講して、学生の歯科医療人としての意識を高める。</p> <p>○達成目標 ・学生の成績：平均GPA2.5以上(満点4)</p>	A	<p>【高く評価する点】</p> <p>プロフェッショナルズの醸成をカリキュラムの中に明確に位置付け、初年次から歯科医療人として社会に貢献するという意識を向上させた。</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>		1		
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)								
		【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)				
		【ウエイトの修正の有無】								
		年度評価	自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容					
		24	評価	ウエイト	評価	ウエイト				
		25								
26										
27										
28										
29										

中期計画		平成28年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
2	【専門課程における教育カリキュラムの検証と充実】 ①歯学教育モデル・コア・カリキュラム改訂版(H22年度)に準じて、臨床登院実習を中心に歯学科カリキュラムを充実させ、実践的歯科医師育成を推進する。 ②1～4年次の完成年度(H25)以降、卒業生の就職状況を踏まえて、口腔保健学科カリキュラムを検証する。 ③チーム医療の意識の醸成を目的とした歯学科と口腔保健学科の連携科目を開講し、口腔保健医療の総合大学としてアピールできるカリキュラムを編成する。  ○達成目標 ・学生の成績:平均GPA 2.5以上(満点4)	2-1	1	【平成28年度の実施状況】 ○これまで本学独自に行ってきたPCC-OSCEを改編し、共用試験実施機構が平成28年末に提示した歯学系「診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験」に準じる形で実施した。 ○臨床実習で口腔保健学科の学生が実際に行なった自験症例をケース別に数値として明示できるような様式に変更した。 ○歯学科と口腔保健学科の合同講義(プロフェッショナリズムⅠ、Ⅲおよび医療コミュニケーションⅠ)の講義実習シラバスを2学科の担当教員で再検討し、講義の予習復習を行いやすいものに変更して、学生の自主性を高める形にした。  ○達成目標 ・学生の成績 : 平均GPA2.7(満点4)	B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】		2
(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)								
【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)				
【ウェイトの修正の有無】								
年度評価	自己評価 評価	評価委員会 ウェイト	自己評価 評価	評価委員会 ウェイト	業務実績評価書の記載内容			
24								
25								
26								
27								
28								
29								

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ 番号	通し 番号	
項目	実施事項				評価	理由			
3	【成績評価基準の明確化と厳格な評価の実施】 ①モデル・コア・カリキュラム改訂にあわせた各教科の到達目標と成績評価基準を授業要綱に明示する。 ②厳格な成績評価を行う。	3-1	2	【平成28年度の実施状況】 ○歯科医学教育センターで作成したロードマップとカリキュラムマップに従い、アウトカム基盤型教育へのシフトを実施した。 ○歯学科では、各学年の成績不振者への寄り添い指導を充実させるために、28年度より各学年の学年主任1名・副任2名の3名体制に増員した、さらにIR(Institutional Research)室で、学年毎の学生データを個別に分析し、成績不振学生は個別に学修指導する体制を構築した。歯学科6年次生では国家試験対策としてこれまで実施してきた助言教員とグループ学習に加えて、18名の成績不振者を対象としたマンツーマンの教育体制を構築した。	B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】		3	
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)							
		【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)			
		【ウエイトの修正の有無】							
		年度 評価	自己評価 評価	ウエイト	評価委員会 評価	ウエイト	業務実績評価書の記載内容		
		24							
		25							
26									
27									
28									
29									

中期計画		平成28年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号		
項目	実施事項				評価	理由				
4	<p>【教育の成果・効果の検証】</p> <p>①歯学科は、共用試験 Objective Structured Clinical Examination (OSCE)とComputer Based Testing (CTB)を教育効果という視点で活用する。</p> <p>②入学試験、定期試験、共用試験、国家試験の結果の相関を分析し、両学科とも国家試験の高い合格率の維持を目指すとともに、入学試験方法の改善を図る。</p> <p>③卒業試験に臨床実習試験制度を導入する。</p> <p>○達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(歯学科)共用試験:共用試験合格率 100%</li> <li>・(歯学科)国家試験合格率:全国29大学の中で常にトップクラスを目指す</li> <li>・(口腔保健学科)国家試験合格率:歯科衛生士国家試験 100%(新卒受験者)</li> </ul>	4-1	1	<p>【平成28年度の実施状況】</p> <p>○IR室での分析のもと成績解析を教員WGを形成して行った。そのうえで成績不振学生に対して、学年主任による指導体制を強化した。卒業未認定者に対しての個別指導プログラムを作成することで、卒業へのプロセスをサポートしたところ、28年度は未認定者3名も卒業することができ、この年度の卒業未認定者は0名であった。</p> <p>○IR室を新設したことにより、入学試験結果、定期試験結果、共用試験結果等を6年間若しくは4年間の教育の流れのなかで、データをより深く分析することが可能な体制を作ることができた。成績不振者のこれまでの縦断的資料を作成することで、原因を明らかにし、学年主任による指導体制に反映させることができた。これらのデータを用いて、29年度の保護者面談に活用する予定である。</p> <p>○教務部会が中心となって卒業試験の試験問題を検証し、質の担保を図るとともに、卒業試験のシステムを現行の3回体制から2回とし、再試験の時期を1月に設定することで、学生が一年間継続して修学するスケジュールを変更した。</p> <p>○4年次と6年次のOSCEの結果を分析したところ、本学附属病院実習での技術が向上しているという傾向が見られたので、今後、より詳細に検証していく。</p> <p>○目標実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・(歯学科)共用試験:共用試験合格率 CBT97.9%、OSCE100%</li> <li>・(歯学科)国家試験合格率:全国29大学の中で新卒4位(85.6%対出願者比)、総合6位(79.3%対出願者比)</li> <li>・(口腔保健学科)国家試験合格率:歯科衛生士国家試験 100%(新卒受験者)</li> </ul>	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>	No.8「資格試験合格率、免許の取得」	4		
(評価委員会)										
【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)										
【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)						
【ウェイトの修正の有無】										
年度	自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容							
評価	評価	ウェイト							評価	ウェイト
24										
25										
26										
27										
28										
29										

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号								
項目	実施事項				評価	理由										
2. 特色ある大学院教育による優れた教員・研究者の育成 1. 授業要綱の充実と改善 2. 大学院指導の客観的評価 3. 学位審査方法の検証	1 【大学院教育組織の検証と適正な運用】 ①大学院カリキュラムを定期的に検証し、高度歯科医療人育成に向けて体系的な教育プログラムを構築する。 ②学位審査方法及び募集定員を検証し、質の高い教育・研究者の育成を目指す。 ③臨床系大学院指導の客観的評価法を検討する。  ○達成目標 ・学生の成績：平均GPA3以上	1-1 【平成28年度計画】 ○これまでの歯学研究科大学院教育カリキュラムを評価し、必要に応じて改善する。 ○本学の准教授・講師の他に医歯工学連携校の教授・准教授・講師を学位審査の副査に登用する。 ○定員充足率について、継続して適正な定員数を検証する。 ○海外連携校からの留学生を積極的に受け入れる。 ○評価方法の妥当性の検証結果に基づき、評価方法を必要に応じて改善する。 ○大学院入試を検証し、改善する。  ○達成目標 ・学生の成績：平均GPA3以上(満点4) ・定数充足率：90%以上	1	【平成28年度の実施状況】 ○ディプロマポリシーに基づいて体系化した大学院教育カリキュラムに基づいた大学院教育を行った。あわせて、平成28年度からシラバスを冊子からオンライン化して提供した。 ○継続して准教授・講師を学位審査の副査に登用し、今年度は学位審査23件で准教授が11件、講師が3件副査を務めた。 ○平成28年度は大学院全体で25名が入学し、充足率は92.45%となった。 ○平成28年度に1名ずつ海外連携校からの留学生が大学院に入学し、タイからの留学生が2名となった。平成29年度大学院入学試験においても海外連携校から1名が受験し大学院に入学する予定である。 ○大学院カリキュラムの各科目における評価方法について歯学研究科委員会で検証した。あわせて、学位論文の審査基準について具体的項目を策定し、学位審査評定票に基づいた学位審査方法について検討する予定である。 ○入試委員会において大学院入試方法について改善を決定し、大学院入学者選抜実施時の口述試験における評定票を導入した。口述試験担当教員選定法の改善を行った。  ○目標実績 ・学生の成績：平均GPA(3.34) ・定数充足率：92.45%	B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】		5								
									(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)							
									【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)			
									【ウエイトの修正の有無】							
									年度評価	自己評価 評価	ウエイト	評価委員会 評価	ウエイト	業務実績評価書の記載内容		
									24							
25																
26																
27																
28																
29																

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ 番号	通し 番号		
項目	実施事項				評価	理由				
2	【歯科保健医療に貢献する 教員・研究者の育成】  ①豊かな科学性と倫理性 を備えた人材を育成する ために口腔保健学科に大 学院を設置する。  ○達成目標 ・口腔保健学科大学院の 充足率:100%	2-1	1	【平成28年度の実施状況】 ○口腔保健学専攻(修士課程)の入学者数:3名(うち新卒者2名、社会人大学院生1名) 平成28年度受験者数:4名、合格者数:3名 ○口腔保健学専攻(修士課程)学位審査会(主査1名、副査2名)のもと、5名の 修了者を認定した。 ○修士課程修了者のうち、2名が本学博士課程の進学を希望し、受験した。  ○達成目標 ・口腔保健学科大学院の充足率:100%(3/3名)	A	【高く評価する点】 ○修了認定した学生は一般枠では2年 間、社会人特別選抜枠では長期履修 制度を活用して、3年間で修了したが、 ともに質の高い研究を行い、そのなか の2名が本学の博士課程への進学を 希望した。  【実施(達成)できなかった点】		6		
		○								
		【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)				
		【ウエイトの修正の有無】								
		年度 評価	自己評価 評価	ウエイト	評価委員会 評価	ウエイト	業務実績評価書の記載内容			
		24								
25										
26										
27										
28										
29										

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号								
項目	実施事項				評価	理由										
3	<p>【歯工学連携大学院の充実】</p> <p>①歯工学連携の充実を図り、大学院教育のカリキュラムを改編する。</p> <p>○達成目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院連携による相互単位認定者：10名以上(年間)</li> <li>・論文数：英文誌5件(年間)</li> <li>・特許保有件数：1件(第2期中期計画期間を通して年間に保有する件数)</li> </ul>	3-1	2	<p>【平成28年度の実施状況】</p> <p>○大学院生の意見を踏まえて歯工学連携大学院カリキュラムを検証し、次年度からの大学院研究科委員会での運用に反映させる体制が整った。</p> <p>○4大学間で単位互換を伴う大学院生対象科目を11科目(本学は4科目)開講し、単位互換認定を56名(本学6名、九工大18名、北九大30名、産業医大2名)に行った。他大学からの本学開講科目受講者数は、36名であった。</p> <p>○大学間連携共同教育推進事業において、平成28年11月11日に4大学連携に基づいた国際シンポジウムを開催した。また、平成29年1月21日に当該事業の事業報告会を開催し、4大学の大学院生による21件の研究発表(本学5件、九工大6件、北九大5件、産業医大5件)を行った。研究内容については、4大学の教員による相互評価を行い、成績優秀者を表彰した。</p> <p>○大学間連携共同教育推進事業で実施する単位互換認定者数は毎年度50人を超え順調に推移しており、大学機関別認証評価において高い評価を得た。</p> <p>○目標実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学院連携による相互単位認定者：56名(年間)</li> <li>・論文数：英文誌6件(年間)</li> <li>・特許保有件数：0件</li> </ul>	A+	<p>【高く評価する点】</p> <p>「大学間連携共同教育推進事業」に採択された「地域連携による「ものづくり」継承支援人材育成協働プロジェクト」に基づく4大学連携大学院は、単位互換協定を締結するとともに、選択科目として学生の受講を可能とするなどの学際領域分野の共同教育だけではなく、共同研究まで視野に入れた柔軟で実質的な運営を目指す点で、今後の成果が期待されるとして、大学機関別認証評価において非常に高い評価を得た。</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>	No.22「大学間連携」	7								
									(評価委員会)							
									【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)							
									【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)			
									【ウエイトの修正の有無】							
									年度評価	自己評価 評価	ウエイト	評価委員会 評価	ウエイト	業務実績評価書の記載内容		
24																
25																
26																
27																
28																
29																

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号								
項目	実施事項				評価	理由										
3. 教員の教育力の向上  1. 教育実施体制の検証・改善 2. 評価方法の検証・改善と適切な運用	1 【FDによる創造的授業開発の推進】  ①FD活動を充実させ、学部および大学院における教育活動の改善につなげる。 ②FD活動の有効性を検証する。  ○達成目標 ・FD参加率およびアンケート調査:参加率95%、平均4点以上(満点5)	1-1 【平成28年度計画】 ○副学長のもとに設置されたFD・SD実施委員会を活かし、教員の教育及び教職連携に対する意識向上を目指したFD活動を行う。 ・啓発のための講演会やワークショップを年間10回行う。教職協働に係る研修も含むように計画する。 ・FD活動の内容に応じて、引き続き有効性を検証する。  ○達成目標 ・FD活動の教員の参加率 : 各回95%以上 ・アンケート調査:平均4点以上(満点5)	1	【平成28年度の実施状況】 ○主に教育改善等に係る教員向けのFDを12回開催し、教職員全般を対象とするFD・SDを12回開催した。 ○FDとしては、アウトカム基盤型教育への取組、入学試験・国家試験に関する分析、大学機関別認証評価の受審、効果的な学修環境の構築、医学教育の潮流等について、学内講師や学外講師による講演やワークショップを開催した。 ○アウトカム基盤型教育への転換を図り、歯科医療人教育の質保証を推進していること、また、入学試験・国家試験の分析結果に基づき教育内容のさらなる改善を行うことなど、FDを通じて教員の認識を高めることができた。また、大学機関別認証評価、歯学教育認証評価についても理解を深めることができた。 ○FD・SDとしては、医療安全講習会、適正な保険診療の実施等に関する講演、理事長による理事会審議内容の報告等を行い、本学附属病院の責務や大学運営のあり方に対する教職員の認識を高めることができた。  ○目標実績 ・FD活動の教員の参加率 : 平均94% ・アンケート調査評価結果 : 平均4.3点(満点5)	A	【高く評価する点】 FD活動を通じ、大学機関別認証評価及び分野別認証評価の重要性に対する教職員の認識を高めることができた。その結果、大学機関別認証評価の受審で十分な力量を発揮することができた。  【実施(達成)できなかった点】	No.10「FD」	8								
									(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)							
									【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)			
									【ウエイトの修正の有無】							
									年度評価	自己評価 評価	ウエイト	評価委員会 評価	ウエイト	業務実績評価書の記載内容		
									24							
25																
26																
27																
28																
29																

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
項目	実施事項				評価	理由			
2	【教育力向上のための教育力評価システムの開発】  ①教員の授業力向上のために、授業評価や個人業績評価データを活用し、年次推移などを踏まえた分析を行い、講義だけでなく臨床実習も含めた形で、教員の教育力を多面的に評価できるシステムの開発を目指す。 ②学生の授業評価、同僚による授業評価等の結果を教員にフィードバックし、授業改善に役立てる。 ③教員に対して、組織的に教育活動の改善を求める。	2-1	1	【平成28年度の実施状況】 ○各教員の自己評価実績報告書等に基づき、分野長、学部長、学長による評価を順次行い、個人業績評価委員会の審議を経て、6区分(S、A～E)で最終評価を行った。最終評価及び各項目の評価結果については、各教員に対しフィードバックを行った。 ○最終評価がC以下となった教員に対しては、学部長、分野長による面談を行い、意見聴取を行った。面談結果については、学部長から個人業績評価委員会に報告され、教育活動の改善に向けた検討を行った。 ○学生による授業評価及び同僚による授業評価等の結果を教員に通知し、授業改善を促した。 ○学生による授業評価、同僚による授業評価及び前年度の個人業績評価の最終評価に基づき、優れた教育を実践する教員の顕彰制度を構築した。	A	【高く評価する点】 ○全般的に分野長、学部長、学長による多面的評価の実施、フィードバックシステムの構築と低評価者に対する面談の実施により、教育活動の改善に対する教員全般の認識が高まり、経年的に評価結果は改善している。  【実施(達成)できなかった点】	No.9「学生による授業評価」	9	
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)							
		【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)			
		【ウエイトの修正の有無】							
		年度評価	自己評価 評価	ウエイト	評価委員会 評価	ウエイト	業務実績評価書の記載内容		
		24							
25									
26									
27									
28									
29									

中期計画		平成28年度計画		ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号										
項目	実施事項	評価	理由																
4. 適性のある優秀な人材の確保  1. 高いモチベーションを有する人材を確保する入学試験方法の開発 2. 高校訪問やオープンキャンパスなどによる充実した広報活動の展開 3. 新たな高大連携事業の展開	1【アドミッションポリシーを重視した入学選抜試験の実施】  ①アドミッションポリシーという視点で個別入試およびAO入試結果を検証する。 ②平成21年度告示高等学校学習指導要領に基づく大学入試センター試験改訂に対応する。  ○達成目標 ・(歯学科) AO入試： 志願倍率 3.0倍 辞退率 0% ・(歯学科) 一般入試： 志願倍率 4.5倍 辞退率 5% ・(口腔保健学科) AO入試： 志願倍率 3.0倍 辞退率 0% ・(口腔保健学科) 一般入試： 志願倍率 2.7倍 辞退率 10%	1-1	【平成28年度計画】 ○入試の結果を引き続き検証する。 ・入試委員会のもと、歯科医療人としての適性という視点から、AO入試については、個別面談及び集団討論の有効性について入学後のGPAおよび国家試験成績等との相関を分析し、評価する。 ○平成26年の中教審答申に明記された入試制度改革の議論を踏まえ、新たな入試制度に対応する個別入試のあり方について検討作業を開始する。  ○達成目標 ・(歯学科) AO入試:志願倍率 3.0倍 辞退率 0% ・(歯学科) 一般入試:志願倍率 4.5倍 辞退率 5% ・(口腔保健学科) AO入試:志願倍率 3.0倍 辞退率 0% ・(口腔保健学科) 一般入試:志願倍率 2.7倍 辞退率 10%	1	【平成28年度の実施状況】 ○一般入試の結果は、歯学科倍率は24年度より5年連続して5倍を超えた。口腔保健学科では29年度は28年度の2.73倍とほぼ同等の倍率であり、入試制度の変更は概ね問題がないものと判断した。 ○AO入試については、これまで入学した学生を一般入試で入学した学生と入学後のGPA、留年、国家試験合格率等についてIR室のデータで検討したところ、一般入学者と比較して、留年率が低く、かつ国家試験合格率が高いことから、AO入試による選抜方法は妥当であると判断した。  ○目標実績 (歯学科) AO入試 ・志願倍率 4.65倍 ・辞退率 0% (歯学科) 一般入試 ・志願倍率 5.54倍 ・辞退率 1%(79名中1名辞退)  (口腔保健学科) AO入試 ・志願倍率 3.33倍 ・辞退率 0% (口腔保健学科) 一般入試 ・志願倍率 2.68倍 ・辞退率 9%(22名中2名辞退)	B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】	No.1「入学者選抜試験」	10										
										(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)									
										【自己評価の修正の有無】				(決定)	(理由)				
										【ウエイトの修正の有無】									
										年度評価	自己評価 評価	ウエイト	評価委員会 評価	ウエイト	業務実績評価書の記載内容				
										24									
25																			
26																			
27																			
28																			
29																			

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号		
項目	実施事項				評価	理由				
2	<b>【広報活動の実施】</b> ①オープンキャンパス、高校訪問、大学入試説明会のデータを分析し、実効的な活動を展開する。 ○達成目標 ・オープンキャンパス、高校訪問および大学入試説明会実績値： オープンキャンパス参加者数 250人 高校訪問数 110校 大学入試説明会参加数 15回 ・オープンキャンパス、高校訪問および大学入試説明会の参加者に対するアンケート調査： ・オープンキャンパス 評価4以上 80% 高校訪問 良好評価 60%以上 入試説明会 良好評価 60%以上 ・志願者数(志願倍率)： (歯学科) 志願者数(志願倍率) 350人以上(4.5倍) (口腔保健学科) 志願者数(志願倍率) 60人(2.7倍)	2-1	<b>【平成28年度計画】</b> ○オープンキャンパスのさらなる充実を図るために、高校教諭向けの施設見学会を充実させる。 ・オープンキャンパスで回収したアンケート調査分析結果をプログラム内容に反映させ、内容をさらに充実させる。 ○高校訪問及び大学入試説明会を中心として様々な方法で広報活動を充実する。 ・昨年作成した「九州歯科大学憲章」を学外に発信する。 ・出張講座、高校訪問、入試説明会を積極的に活用し、そこのアンケートを分析するとともに、DVD等の視覚素材を利用する等、改善を図る。 ・ホームページ更新の頻度を増やし、受験生をターゲットにした情報発信の充実を図る。 ・高大連携活動等を通じて、高校教諭との意見交換を積極的に行う。 ○達成目標 ・オープンキャンパス、高校訪問および大学入試説明会： オープンキャンパス参加人数 250人 高校訪問数 110校 大学入試説明会参加数 15回 ・オープンキャンパス、高校訪問および大学入試説明会の参加者に対するアンケート調査： オープンキャンパス評価4以上 80% 高校訪問良好評価 60%以上 入試説明会良好評価 60%以上 ・志願者数(志願倍率)： (歯学科) 志願者数(志願倍率) 350人(4.5倍) (口腔保健学科) 志願者数(志願倍率) 60人(2.7倍)	1	<b>【平成28年度の実施状況】</b> ○オープンキャンパスをさらに充実させ、高校教諭向けの施設見学会と大学説明会を実施した。 ○高校訪問において、九州歯科大学憲章をはじめとする本学の教育ポリシーを広報した。さらにSSH(小倉高校)やSGH(明治学園高校)などのプログラムへの参加を継続し、高大連携活動を通じて、高校教諭との意見交換を活発に行った。 ○目標実績 ・オープンキャンパス、高校訪問および大学入試説明会： オープンキャンパス参加人数 489人 高校訪問数 126校 大学入試説明会参加数 15回 ・オープンキャンパス、高校訪問および大学入試説明会の参加者に対するアンケート調査： オープンキャンパス評価4以上 99.2% 高校訪問良好評価 98% 入試説明会良好評価 100% ・志願者数(志願倍率)： (歯学科) 志願者数(志願倍率) 432人(5.54倍) (口腔保健学科) 志願者数(志願倍率) 59人(2.68倍)	B	<b>【高く評価する点】</b>  <b>【実施(達成)できなかった点】</b>	No.1「入学者選抜試験」 No.3「高校訪問」 No.4「入試説明会」 No.5「出前講座」 No.6「オープンキャンパス」	11	
(評価委員会)										
【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)										
【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)						
【ウエイトの修正の有無】										
年度	自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容							
評価	評価	ウエイト							評価	ウエイト
24										
25										
26										
27										
28										
29										

中期計画		平成28年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
3	<b>【高大連携の実施】</b> ①高校との連携を深め、組織的に模擬講義を企画運営する。 ②高校の進路指導教諭を対象とした大学施設見学会の実施等を行う。  ○達成目標 ・模擬講座実施回数、参加学生数、参加者アンケート :実施回数 6回 参加学生数 80人 良好評価 60%以上 ・大学施設見学会実施回数、参加教諭数、参加者アンケート :実施回数 1回 参加教諭数 20人 良好評価 60%以上	3-1 <b>【平成28年度計画】</b> ○高校での模擬講義を実施するとともに、そこで得られた評価結果を検証する。 ○高校の進路指導教諭を対象とした大学施設見学会を実施するとともに、その効果について評価する。 ・九州歯科大学憲章をもとに、本学の教育研究目標を説明し、歯科医療人の魅力を訴える。  ○達成目標 ・模擬講座実施回数、参加学生数、参加者アンケート: 実施回数 6回 参加学生数 80人 良好評価 60%以上 ・大学施設見学会実施回数、参加教諭数、参加者アンケート: 実施回数 1回 参加教諭数 20人 良好評価 60%以上	1	<b>【平成28年度の実施状況】</b> ○模擬講座を実施した5校のうち、1校での満足度が9割を下回った。依頼された講演内容が、学生のニーズとマッチしなかったことが考えられるので、訪問高校のニーズを考えた出前講義の必要性が示唆された。 ○オープンキャンパスの開催にあわせて、進路指導教諭を対象として実施した。活発な質疑から本学に対する興味が伺えた。歯学教育の実態と今後の歯科医療人の職域に関する理解を深めてもらったことから、今後も地道な広報活動を継続するとともに、29年度は高校教諭へより積極的なアプローチを実施することが重要であると判断した。  ○目標実績 ・模擬講座実施回数、参加学生数、参加者アンケート :実施回数 5回 参加学生数 195人 良好評価 91.8% ・大学施設見学会実施回数、参加教諭数、参加者アンケート :実施回数 1回 参加教諭数 2人 良好評価 100%	B	<b>【高く評価する点】</b>   <b>【実施(達成)できなかった点】</b>	No.5「出前講座」	12
(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)								
【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)				
【ウェイトの修正の有無】								
年度	自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容					
評価	評価	ウェイト	評価	ウェイト				
24								
25								
26								
27								
28								
29								

中期計画		平成28年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
5. 学生への支援  1. 学生のニーズや社会状況の変化に対応した学生支援の実施 2. 教員、職員が連携したきめ細かな学生支援の実施	1【学生相談・助言・支援の組織的対応】  ①学生相談業務を充実し、支援体制の拡充を図り、きめ細かな学生支援を実施する。 ②学年主任会議、学生対策指導会議などを通して連携を強化し、教職員が一体となって問題案件の解決を図る。 ③保護者説明会を開催し、成績不振学生への修学指導を行う。  ○達成目標 ・学生支援に関するアンケート調査:評価4以上(満点5) ・保護者説明会に関するアンケート調査:評価4以上(満点5)	1-1【平成28年度計画】 ○学年主任会議を活用し、学生の要望や困りごとに対し迅速に対応する体制を強化する。 ・学生相談について、引き続き利用しやすい環境作りに努める。 ・学生に対して行っている学生支援に関するアンケート調査を引き続き分析し、改善策を講じる。 ○学長賞については、今年度より開学記念日に講堂において授賞式を実施することにより、賞の価値を高め受賞者のステイタスを向上させる。 ○キャンパスライフ・ガイダンスのさらなる充実を図り、学生に修学指針を周知徹底するとともに、学生の意見を聴取して実態を把握する。 ○保護者説明会を開催するとともに、保護者に対して大学の「学生指導」に関するアンケート調査を継続する。  ○達成目標 ・学生支援に関するアンケート調査 : 評価4以上(満点5) ・学生指導に関するアンケート調査 : 評価4以上(満点5)	1	【平成28年度の実施状況】 ○学年主任副任の各1名指導体制から、副任を2名の3名体制にすることで、より学生に寄り添える指導体制に変更した。 ○キャンパスライフ・ガイダンスにて、修学のポイントを指導し、聴講したものが得られる魅力を明確かつ具体的に提示にすることで、参加したくなるキャンパスライフ・ガイダンスを構築した。 ○開学記念日(創立記念日)での授賞式を事務局主導でスムーズかつ格調高く行うことができた。 ○保護者アンケート調査をすることで、本学の教育に対する保護者の意識向上につながるかという観点で解析を開始した。  ○達成実績 ・学生支援に関するアンケート調査 : 評価3.3(満点5) ・学生指導に関するアンケート調査 : 評価3.8(満点5)	B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】	No.7「学生の満足度調査」 No.16「課外活動の状況」	13
【自己評価の修正の有無】		(決定)	(理由)					
【ウェイトの修正の有無】								
年度評価	自己評価 評価	ウェイト	評価委員会 評価	ウェイト	業務実績評価書の記載内容			
24								
25								
26								
27								
28								
29								

中期計画		平成28年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号									
項目	実施事項				評価	理由											
2	<b>【就職支援の充実】</b> ①就職支援体制を整備し、入学時からキャリアデザインを支援する取り組みを行う。 ②口腔保健学科では、歯科衛生士としての位置付けにとどまらず、口腔保健活動の新たな担い手として就労できるように幅広い就職先を開拓する。 ③学生に対し、就職情報獲得のためのセミナーを開催し、就職支援を推進する。  ○達成目標 ・(歯学科)歯科医師臨床研修マッチング率:100% ・(口腔保健学科)就職率:100% ・訪問先の企業・病院・施設でのアンケート調査:良好評価60%以上	2-1	1	<b>【平成28年度の実施状況】</b> ○入学後のWADSキャンプから、3,4年次のプロフェッショナル科目まで一貫してキャリアデザインを意識した科目とし、将来像の明確に描けるように援助した。 ○口腔保健学科では、就職支援会議での議論を年を重ねるごとに充実させ、学生が多彩な就職先を見学する機会を作るなど工夫を凝らし、今年度も就職率100%を維持することができた。  ○目標実績 ・(歯学科)歯科医師臨床研修マッチング率:100% ・(口腔保健学科)就職率:100%	B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】	No.18「就職状況」	14									
									(評価委員会)								
									【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)								
									【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)				
									【ウェイトの修正の有無】								
									年度評価	自己評価 評価	自己評価 ウェイト	評価委員会 評価	評価委員会 ウェイト	業務実績評価書の記載内容			
									24								
25																	
26																	
27																	
28																	

中期計画		平成28年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号										
項目	実施事項				評価	理由												
3	【経済的支援の充実】 ①図書館やTA等により、学内で学生・大学院生を臨時的に雇用するなど、経済的支援を充実させる。 ②授業料の減免・分納制度や奨学金情報の周知徹底を図る。  ○達成目標 ・TA制度の認知度:100% ・学生支援機構以外の奨学金の認知度:100%	3-1	1	【平成28年度の実施状況】 ○経済支援の機会を増やすと共に、4月に発生した熊本・大分震災での被災者や家族が被災した学生に対する学費の減額・免除を含む支援を新設した。 ○オープンキャンパスや図書館業務での学生の臨時的な雇用を促進し、さらに大学院生に対して、Teaching Assistant(TA)としての雇用も機会を増やした。 ○学生への経済支援に係る情報の収集・提供を行った。県内外の自治体及び民間団体の奨学金制度情報の把握に努め、学部学生及び大学院生に対して継続的に情報提供を実施した。  ○目標実績 ・TA制度の認知度:100% ・学生支援機構以外の奨学金の認知度:100%	B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】		15										
									(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)									
									【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)					
									【ウェイトの修正の有無】									
									年度	自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容						
									評価	評価	ウェイト						評価	ウェイト
									24									
									25									
									26									
									27									
28																		
29																		
		ウェイト総計	28年度 17	項目数計			28年度 15											

【ウェイト付けの理由】

【ウェイト付けの理由】

「1-1-3-1」医歯学教育の新たな風潮である「アウトカム基盤型教育」が本学に適しているかについて検証したところ、歯学科、口腔保健学科ともに教育効果を図るうえで適しているという結果が得られた。そこで、平成28年度に本格導入する。

「1-2-3-1」文部科学省補助金事業の最終年度にあたり、北九州地区における医歯工連携教育の集大成を目指す。

教育に関する特記事項

平成27年度の歯科医師国家試験結果を真摯に受けとめ、平成28年度の成績向上にむけて全学体制で臨むこととした。

(評価委員会)

【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)

【意見・コメント等】

## 年度計画項目別評価

中期目標 2. 研究	「大学の特色ある教育や地域社会の発展に役立つ研究を推進する。」  国内外の大学や試験研究機関との共同研究、企業、行政機関等との連携を通じ、大学の特色ある教育や地域の歯科保健医療の発展に有用な研究を重点的に推進する。研究成果については、積極的に公表し、社会に還元する。
---------------	---

中期計画		平成28年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ 番号	通し 番号		
項目	実施事項				評価	理由				
1. 研究水準 並びに研究 成果の向上  1. 全学的 研究事業の 展開 2. 研究成 果の公表	【適正な研究者の配置及 び研究費の配分】  ①大学として特色ある研 究、地域社会の発展に役 立つ研究を推進するた め、教員の研究業績を評 価分析し、各分野におけ る教員配置の適正化を図 る。 ②大学に貢献する研究に 対し、研究費を重点配分 する。  ○達成目標 ・研究成果に応じて配分す る学長配分研究費の割合 ：40%	1-1	【平成28年度計画】  ○新たな大学院教員資格基準を適用開始 する。 ○分野ごとに授業方法ならびに研究業績の 評価方法を改善し、教員を適正に配置する 議論を継続する。 ○大学の理念に沿った学長配分研究費の 重点配分の方法を継続するとともに、確立し た検証方法に基づき改善する。  ○達成目標 ・研究成果に応じて配分する学長配分研究 費の割合：40%	1	【平成28年度の実施状況】  ○大学院教員資格審査委員会において大学院教員資格基準に基づいた教員 審査を実施し、平成28年度4月より教授26名、准教授21名、講師17名、助教 55名に適用した。 ○個人業績評価作業部会で評価項目を見直し、項目の削除や追加、また点数 の適正化を行った。これに基づいて分野毎の業績評価を行い、教員を適正に配 置する方法を確立した。平成28年度の配分について個人業績評価委員会で検 証したところ、特に適正を欠くとみなされる教員はいなかった。 ○昨年同様に学長重点枠で、中期計画の達成に資する「問題解決型」「FS研 究」「歯工学連携」の3つの分野の研究を展開することを決め、研究費を適正に 配分した。  ○目標実績 ・研究成果に応じて配分する学長配分研究費の割合：30%	B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】		16	
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)								
		【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)				
		【ウェイトの修正の有無】								
		年度 評価	自己評価 評価	自己評価 ウェイト	評価委員会 評価	評価委員会 ウェイト	業務実績評価書の記載内容			
		24								
25										
26										
27										
28										
29										

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号							
項目	実施事項				評価	理由									
2	【研究の事後評価システムの充実】 ①研究活動の事後評価システムを適正化し、各研究者の研究活動を公表する。 ②研究開発成果などの知的財産を総合的かつ戦略的に管理・活用する知的財産部門を設置する。  ○達成目標 ・論文数(査読有りのもの、学術書掲載のもの): 英文誌70件(年間) ・学会発表(国際学会での招待講演、シンポジスト招聘に限る): 25件(年間) ・特許保有件数: 3件(第2期中期計画期間を通して年間に保有する件数)	2-1	1	【平成28年度の実施状況】 ○大学院教員資格審査委員会で大学院教員資格基準等を検証した。また、研究計画と研究実施能力に基づいて研究業績を評価した。 ○各教員の研究活動の中で客観的評価の高い研究内容や、大学が推進する研究成果をホームページ上で公表した。(大学院生5件、教員3件) ○本学の研究成果を知的財産の観点から検証する組織として発明審査会を開催し、1件について大学として申請することを決定した。  ○目標実績 ・論文数(査読有りのもの、学術書掲載のもの): 英文誌85件 ・学会発表(国際学会での招待講演、シンポジスト招聘に限る): 41件 ・特許保有件数: 3件	B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】	No.20「論文等の実績」	17							
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)													
		【自己評価の修正の有無】 (決定) (理由)													
		【ウエイトの修正の有無】													
		年度							自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容				
		評価							評価	ウエイト					
24															
25															
26															
27															
28															
29															

中期計画		平成28年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
項目	実施事項				評価	理由			
3	【外部大型研究資金の獲得】 ①大学として、大型外部資金獲得のために積極的な活動を行う。  ○達成目標 ・科学研究費：60件(年間) ・委託研究費・共同研究費：60件(第2期中期計画期間中) ・奨学寄付金：60件(第2期中期計画期間中) ・文部科学省等が設定する大型プロジェクトの獲得：1件(第2期中期計画期間中)	3-1	1	【平成28年度の実施状況】 ○教員個人の外部研究資金の増加を目指し、科研費の採択件数の目標を上回った。 ○平成27年度に採択された文部科学省補助金事業「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COCプラス)」に連携校として参加し、本事業を推進した。 ○継続して大学組織としての外部大型資金の獲得を目指し、関係機関との連携に向けた協議を実施した。  ○目標実績 ・科学研究費：72件 ・委託研究費・共同研究費：6件 ・奨学寄付金：12件	B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】	No.19「研究」	18	
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)							
		【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)			
		【ウェイトの修正の有無】							
		年度評価	自己評価 評価	ウェイト	評価委員会 評価	ウェイト	業務実績評価書の記載内容		
		24							
		25							
26									
27									
28									
29									

中期計画		平成28年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号					
項目	実施事項				評価	理由							
	4【産学官連携の推進】 ①一般企業ならびに学外諸機関との交流を深め、歯学部得意分野を活かした連携を推進する。  ○達成目標 ・産学官連携件数：40件(第2期中期計画期間中) ・特許出願件数：10件(第2期中期計画期間中)	4-1【平成28年度計画】 ○福岡県重点施策を通じて、他領域の学問分野にも注目される研究活動を展開し、福岡県の産業に貢献する研究を推進する。 ○大学間連携事業をさらに発展させ、CCRC活動を展開し、県民の健康・福祉の向上に向けた活動を推進する。  ○達成目標 ・産学官連携数：5件 ・特許出願件数：2件	1	【平成28年度の実施状況】 ○他領域の学問分野にも注目される研究活動を展開し、福岡県の産業に貢献する研究を推進することを目的に、文部科学省大学連携による「ものづくり」継承支援人材育成協働プロジェクトにおいて、国際学会1件、事業報告会1件を開催した。 ○平成27年度に引き続き、文部科学省補助金事業「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COCプラス)」に連携校として参加し、福岡県と協働で高齢者のQOL支援に係る実践的教育や地元企業との連携によるビジネス創生を推進した。  ○目標実績 ・産学官連携数：6件 ・特許出願件数：1件	B	【高く評価する点】	No.21「産学官連携」	19					
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)											
		【自己評価の修正の有無】				(決定)			(理由)				
		【ウェイトの修正の有無】											
		年度評価		自己評価 評価		ウェイト			評価委員会 評価	ウェイト	業務実績評価書の記載内容		
		24											
		25											
		26											
		27											
		28											
		ウェイト総計	28年度 4				項目数計	28年度 4					
【ウェイト付けの理由】													
研究に関する特記事項													
(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)				【意見・コメント等】									

年度計画項目別評価

<p>中期目標 3. 社会貢献</p>	<p>「大学の特色を活かして、社会貢献活動を拡充する。」</p> <p>大学の特色を活かして、歯科医師や歯科衛生士等のキャリアアップに資する教育プログラム等の実施や、地域の歯科保健医療の発展に貢献する取組を積極的に実施する。また、国際化を推進するための体制を強化し、アジアをはじめとする海外の大学等との交流を充実させる。</p>
-------------------------	--

中期計画		平成28年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号									
項目	実施事項				評価	理由											
<p>1. 地域社会への貢献及び国際交流に関する体制の構築・維持</p> <p>1. 社会貢献及び国際交流の促進 2. 地域連携及び国際交流に係る業務の組織的対応</p>	<p>【リカレント教育の充実】</p> <p>①地域歯科医療に携わる歯科医療職に対して、セミナーの開催やe-learning等を通じたリカレント教育を展開する。</p> <p>○達成目標 ・開催回数および受講者数：開催回数 2回/年 受講者数 50人/回 ・アンケートによる満足度調査：満足度4点以上(満点5) ・e-learningの満足度調査：満足度4点以上(満点5)</p>	<p>1-1 【平成28年度計画】</p> <p>○口腔保健・健康長寿推進センターにおいて、地域歯科医療関係者や介護医療従事者に対して、地域包括医療に関するセミナーを開催する。 ・歯科医師等の医療専門職を対象としたセミナーを開催するとともに、受講満足度にかかるアンケート調査をもとに検証する。</p> <p>○口腔保健・健康長寿推進センターにおいて、健常者型から高齢者型に変化している歯科治療に対応できる歯科医療人リカレント教育システムの構築を検討する。 ・高齢社会に対応し、高齢者の治療やケアを行える歯科医療人リカレント教育プログラムを作成する。</p> <p>○e-learningの充実を図る。 ・e-learning受講者を対象とした受講満足度にかかるアンケート調査を引き続き実施する。</p> <p>○達成目標 ・開催回数および受講者数：開催回数 2回/年 受講者数 80人/回 ・アンケートによる満足度調査：満足度4点以上(満点5) ・e-learningの満足度調査：満足度4点以上(満点5)</p>	2	<p>【平成28年度の実施状況】</p> <p>○口腔保健・健康長寿推進センターにおいて、地域歯科医療従事者に対し、講演と実習を主体にした地域包括医療に関する8回にわたるセミナー(リカレント教育)を実施した。歯科医師を対象とした8回のセミナー(リカレント教育)終了後、受講満足度にかかるアンケート調査を行った。その結果、講義は平均で4.7点、4.85点、実習は同じく4.5点、4.3点(すべて5点満点)、前者がリスクマネジメント、後者が摂食嚥下)と非常に高い満足度であった。</p> <p>○北九州市の6歯科医師会と連携して①重篤な全身疾患を有する患者の質の高い安全な歯科治療を実現するためのリスクマネジメント、および②地域に在住する摂食嚥下障害患者に対するアプローチを行うための実践的教育を主要なテーマとして、講義+実習の形でリカレント教育を実施した。 ・各講義では同一の問題を用いてプレ・ポストテストを行った。いずれも終了時は開始前に比較して高得点となり、有用性が認められた。例えば、講義実習前のプレテストでは、平均が54.3点であったものが、終了後は91.4点まで上昇するなど、非常に高い学習効果が得られた。</p> <p>○e-learningについては今回のアンケート調査結果を踏まえ、更新を検討しているところである。</p> <p>○達成目標 ・開催回数および受講者数：16回/年、8人/回 ・アンケートによる満足度調査：講義は平均で4.7点、4.85点、実習は同じく4.5点、4.3点(すべて5点満点、前者がリスクマネジメント、後者が摂食嚥下)と非常に高い満足度であった。 ・e-learningの満足度調査：満足度4</p>	A+	<p>【高く評価する点】</p> <p>口腔保健・健康長寿推進センターを開所し、北九州地区の歯科医師にリカレント教育を実施することができ、北九州市内の歯科医師会と連携することができた。</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>		20									
									<p>(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)</p>								
									【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)				
									【ウェイトの修正の有無】								
									年度評価	自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容					
										評価	ウェイト	評価	ウェイト				
									24								
									25								
									26								
									27								
28																	
29																	

中期計画		平成28年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号				
項目	実施事項				評価	理由						
2	【他大学との社会貢献共同プログラムの実施及び研究成果等の地域への発信】  ①県立三大学連携による社会貢献共同プログラムを実施する。 ②市民公開講座等を通じて、地域住民に研究成果等の情報を広く発信する。  ○達成目標 ・県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの実施：1企画以上 ・市民公開講座開催数および受講者数：開催数3回/年 受講者数50人/回 ・受講者の満足度に係るアンケート：受講者の満足度 満足度4以上(満点5)	2-1	1	【平成28年度の実施状況】 ○平成28年10月30日、本学大学祭(歯大祭)において、福岡女子大学、福岡県立大学との連携による市民公開講座を開催し、本学自見英治郎教授による「歯科における研究とは？」の講演を行った。 ○平成28年11月19、20日に西日本総合展示場新館AIMビル3階において本学、産業医科大学、九州工業大学、北九州大学による「4大学スクラム講座(市民公開講座)」を開催し、本学からは老年障害者歯科学分野藤井 航准教授による「摂食嚥下障害を、その眼で見よう！～いつまでも口から食べるために～」の講演を行い、多くの市民から好評を得た。 ○平成29年3月4日、西日本工業大学小倉キャンパスにおいて大学連携型ふくおか版CCRC「生涯活躍のまち」構築に向けてと題する市民公開講座を西日本工業大学、西南女学院大学との連携により開始し、本学からは口腔保健・健康長寿推進センター(DEMCOP)の大渡凡人教授による「アクティブシニアとして生きるために必要な口腔機能管理」の講演を行った。  ○目標実績 ・県立三大学連携による社会貢献共同プログラムの実施：1企画 ・市民公開講座開催数および受講者数：開催数10回/年 受講者数50人/回 ・受講者の満足度に係るアンケート：受講者の満足度 満足度4以上(満点5)	B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】	No. 22「大学間連携」 No. 23「公開講座」	21				
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)										
		【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)						
		【ウェイトの修正の有無】										
		年度		自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容						
		評価		評価	ウェイト						評価	ウェイト
		24										
25												
26												
27												
28												
29												

中期計画		平成28年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号									
項目	実施事項				評価	理由											
3	【アジアを軸とした海外との連携促進】 ①アジア諸国から留学生を積極的に受け入れる体制を強化する。 ②海外大学との学術交流を推進する。 ③ネパールやベトナムを中心とした歯科保健活動を推進する。  ○達成目標 ・留学生数：5人(第2期中期計画期間中) ・海外大学との学術交流件数：5件(第2期中期計画期間中)	3-1 【平成28年度計画】 ○留学生を積極的に受け入れる。 ・外国人留学生受入のため、入試やカリキュラム等の体制を改編する。 ○海外大学との学術交流を進める。 ・新たに海外の大学との間に学術連携協定を締結し、連携大学数を増やす。 ・九州歯科大学基金により、海外大学との間で学生交流事業を実施する。 ・海外研究者との連携を図り、国際シンポジウムを開催する。 ・海外連携校との間で、教員の交流を深める。 ○海外での歯科保健活動を推進する。 ・ミャンマー等のアジア諸国との交流を深め、幅広い活動を展開する。  ○達成目標 ・留学生数：1人 ・海外大学との学術交流件数：2件 ・海外大学の学術連携協定締結：1件	2	【平成28年度の実施状況】 ○留学生の積極的な受け入れを行った。 ・大学院歯学研究科博士課程において、タイからの留学生1名を受け入れた。 ○海外大学との学術交流を進めた。 ・九州歯科大学基金を活用し、学生海外短期派遣プログラムを正規の選択科目「国際歯科医学実習」として実施した。平成28年度はシーナカリンウィロート大学(タイ)に3名、高雄医科大学(台湾)に2名、合計5名の学生を派遣した。 ・シーナカリンウィロート大学歯学科より2名、高雄医科大学口腔保健学科より3名の短期派遣学生を受け入れた。さらに本年度より台北医科大学(台湾)と学術連携協定を締結し、同大学の歯学部歯学科より4名、口腔保健学科より4名、合計8名の短期派遣学生を受け入れた。 ・本学主催の国際学会「Asia-Pacific Conference in Fukuoka (APC)」および文部科学省大学間連携共同教育推進事業による国際シンポジウム「International Symposium on Interdisciplinary Education and Research」を開催し、台北医科大学、ヤンゴン歯科大学、ヘルシンキ大学より4名の教授を招聘した。 ・本学学長がタイ、ミャンマーの大学から客員教授として招聘され、各大学において講義を行った。 ○海外での歯科保健活動を推進した。 ・前年度に引き続き、ベトナムでの歯科保健活動のために派遣を行った。  ○目標実績 ・留学生数：大学院1人 ・海外大学との学術交流件数：6件 ・海外大学の学術連携協定締結：1件	A	【高く評価する点】 本学の大学院にタイのシーナカリンウィロート大学から1名の学生が入学した。学術交流協定締結校との学術交流を推進し、本学の正規の選択科目として短期派遣プログラムを実施した。短期派遣に加えて、学術交流協定締結校の学部学生の受け入れも実施した。また学長自らが、Visiting Professorとしてタイ、ミャンマーの大学に出向き、講義を行い、次なる連携に向けての一手を打つことができた。  【実施(達成)できなかった点】	No. 24「国際交流協定」 No. 25「学生、教員の国際交流」	22									
									(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)								
									【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)				
									【ウェイトの修正の有無】								
									年度評価	自己評価 評価	評価委員会 ウェイト 評価	ウェイト	業務実績評価書の記載内容				
									24								
									25								
26																	
27																	
28																	
29																	

中期計画		平成28年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
項目	実施事項				評価	理由			
4	【地域住民の健康増進に資する普及・啓発活動の実施】  ①保育園、幼稚園等への訪問による講演や歯科相談を実施する。 (歯と口を通じた地域住民の子育て支援活動) ②公民館、老人クラブ等への訪問による講演や歯科相談を実施する。 (食べる機能の維持・向上を通じた高齢者の自立支援活動) ③福岡県歯科保健医療計画の見直しに必要なデータを提供する。 (福岡県民への歯科保健医療施策に対する後方支援活動)  ○達成目標 ・保育園、幼稚園等への訪問回数及びアンケート調査：5回 満足度4以上(満点5) ・公民館、老人クラブ等への訪問回数及びアンケート調査：5回 満足度4以上(満点5)	4-1	1	<b>【平成28年度の実施状況】</b> ○大学近隣の保育園、幼稚園に訪問して分かりやすい講演とお口の相談を実施した。 ・到津保育園、天心幼稚園、八幡カトリック幼稚園の3施設で実施し、満足度に関するアンケート調査を行った。(保護者102名、園児102名)。 ○小倉北区老人クラブ連合会とともに小倉歯科医師会の在宅歯科医療連携室と連携して、高齢者に対する口腔保健に関する講演と相談を実施し、満足度に関するアンケート調査を行った。 ・南丘校区老人連合会、南小倉校区老人会(参加者数:104名) ・苅田町の「すてきにマンデーション」(苅田町中央公民館)で口腔保健に関する講話を行った。(5回)  ○目標実績 ・保育園、幼稚園等への訪問回数:3回、満足度4.8 ・公民館、老人クラブへの訪問回数:7回、満足度4.8	B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】		23	
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)							
		【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)			
		【ウェイトの修正の有無】							
		年度評価	自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容				
		評価	評価	ウェイト	評価	ウェイト			
		24							
25									
26									
27									
28									
29									

中期計画		平成28年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号		
項目	実施事項				評価	理由				
5	【地域における在宅療養高齢者に対する歯科保健医療サービスの提供】  ①地域で在宅療養を行っている高齢者の口腔機能に着目して、摂食嚥下リハビリテーションなどの歯科保健医療サービスを提供する。	5-1	1	【平成28年度の実施状況】 ○附属病院において、在宅での内視鏡下嚥下機能検査(VE)をはじめとする歯科保健医療サービスを8件/年実施した。 ・口腔保健・健康長寿推進センターで行った講義・実習時において、在宅ケアにおける歯科医療活動の実態についてのアンケートを実施した。	B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】		24		
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)								
		【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)				
		【ウェイトの修正の有無】								
		年度評価	自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容					
		24	評価	ウェイト	評価	ウェイト				
		25								
26										
27										
28										
29										
		ウェイト総計	28年度	項目数計			28年度			
			7					5		

## 【ウェイト付けの理由】

「3-1-1-1」平成28年度に設置する「口腔保健・健康長寿推進センター」における活動をすみやかに展開するために、センター長に適した優秀な人材を広く求め、リカレント教育を含め、幅広い教育を展開する。  
「3-1-3-1」平成27年度から本格実施した海外教育連携活動をさらに充実させて、Global and Local Academic Collaborationを確立する。

## 社会貢献に関する特記事項

福岡県の施策として摂食嚥下治療等の推進のため、口腔保健・健康長寿推進センターを開所した。

## (評価委員会)

【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)

## 【意見・コメント等】

年度計画項目別評価

<p>中期目標 4. 業務運営</p>	<p>「理事長のリーダーシップのもと、大学運営の改善を推進する。」</p> <p>大学は、理事長のリーダーシップのもと、自立性を確保しつつ、社会のニーズに対応するため、柔軟かつ機動的に教育研究体制を整備し、大学運営の改善を推進する。多様化する大学運営の課題に対応するため、専門性を備えた人材の確保・育成を図る。</p>
-------------------------	---

項目	実施事項	平成28年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号									
					評価	理由											
<p>1. 事務局体制の強化</p> <p>1. 戦略的・自律的大学の運営をさらに進めるための専門部署の設置</p> <p>2. 専門性を有する人材の確保・育成による、県派遣職員に依存する業務体制から自律的大学の運営に資する業務体制への転換</p>	<p>【大学の戦略的・自律的運営を企画主導する企画広報部門の設置及び運営体制の検証】</p> <p>①大学運営の戦略や中期計画等重要事項の企画立案・検討を行い、情報発信の中心となる企画広報部門を経営管理部に設置する。</p> <p>②企画広報部門により、戦略的・自律的大学の運営を推進する。</p> <p>③企画広報部門の業務運営を検証する。</p>	<p>1-1 【平成28年度計画】</p> <p>○企画広報班において中期計画等重要事項の企画立案・検討を行い、効果的な情報発信とともに、戦略的・自律的大学の運営を引き続き推進する。</p> <p>○企画広報班の設置の効果を引き続き検証するとともに、必要に応じて見直しを行う。</p>	<p>1</p>	<p>【平成28年度の実施状況】</p> <p>○企画広報班において、中期計画に係る進捗管理を行うとともに、効果的に本学の情報発信を行った。</p> <p>・計画項目ごとに実施責任者およびそれをサポートする事務局窓口を明示し、責任体制を明確にした。</p> <p>・進捗の把握に努めるとともに、案件によっては部局長等連絡会議の議題として協議を行う等の対応をとり、戦略的自律的大学の運営が行われるよう努めた。</p> <p>・本学のブランドイメージについて情報発信を行った。</p> <p>○口腔保健・健康長寿推進センター（DEMCOP）の設置及びその運営において、広報等の役割を果たした。</p> <p>○文部科学省補助金事業「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COCプラス）」において、申請校の北九州市立大学との間で調整を行い、西南女学院大学、西日本工業大学とともにCOCプラスプロジェクト運営センターが取り組んでいるプロジェクト10「北九州地区CCRCによる高齢者QOLビジネス創出」に寄与した。</p> <p>○企画広報班の役割や効果について検証した。</p> <p>・新たに科学研究費等の研究費事務、国庫補助事業の事務処理等を行う職員が配置され、班長以下情報処理専門のプロパー職員を含めた職員4名体制をとった。</p> <p>・事務局における企画広報班の役割が浸透し、部局間の連絡調整がより円滑化するとともに、海外大学との交流、各自治体との連携、産学連携や各地域医療機関等との協定締結で役割を果たすなど、対外的な法人窓口として業務フローの円滑化をさらに進めた。</p>	<p>B</p>	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施（達成）できなかった点】</p>		<p>25</p>									
									<p>(評価委員会)</p> <p>【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)</p>								
									【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)				
									【ウェイトの修正の有無】								
									年度評価	自己評価 評価	評価委員会 ウェイト	自己評価 評価	評価委員会 ウェイト	業務実績評価書の記載内容			
									24								
25																	
26																	
27																	
28																	
29																	

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
項目	実施事項				評価	理由		
	2【プロパー職員の採用と専門性を持った大学職員の育成】 ①事務職や看護職等のプロパー職員を採用し、将来の大学運営を担う専門性を持った職員を育てる。 ②プロパー事務職員の人事評価制度を導入し、必要に応じて見直す。 ③人事評価に基づき採用計画の検証・見直しを行い、第3期中期計画期間に向けた事務局体制を検討する。	2-1【平成28年度計画】 ○専門性を有する職員を育成するため、競争試験等によりプロパー職員の採用を行う。 ・プロパー職員について、退職者が出た際は、専門性を持った有能な人材の確保を行う。 ・プロパー事務職員の人事評価制度の導入については、先行実施した他大学(福岡女子大学)の状況を検証し、引き続き検討する。 ・プロパー職員の勤務状況等を検証し、自律的の大学運営を推進する。	1	【平成28年度の実施状況】 ○平成25年度から実施している競争試験により附属病院の歯科衛生士1名を採用した。 ・人事評価制度の導入について三大学で引き続き検討することとした。 ・なお、これまでに採用したプロパー職員の勤務状況は良好で能力も高い。	B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】		26
(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)								
【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)				
【ウエイトの修正の有無】								
年度評価	自己評価 評価	ウエイト	評価委員会 評価	ウエイト	業務実績評価書の記載内容			
24								
25								
26								
27								
28								
29								

中期計画		平成28年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号																																						
項目	実施事項				評価	理由																																								
	<p>【SDの実施や専門研修等への派遣、キャリア開発支援等を軸とした事務局職員の資質・能力の向上】</p> <p>①福岡県の公立大学の職員としてふさわしい知識や資質を身に付けさせるため、事務職員を対象としたSDを検討し実施する。</p> <p>②大学運営のスペシャリストとして育成するため、プロパー職員を公立大学協会等が主催する外部セミナーや専門研修へ派遣する。</p> <p>③事務職員の自律的なキャリア開発支援として、自己啓発や通信教育などに対する支援を検討し実施する。</p> <p>④より機能的な事務体制の実現に向けて、県立三大学の事務処理の共通化を検討し実施する。</p>	<p>3-1 【平成28年度計画】</p> <p>○事務職員の資質・能力の向上に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務職員のSDを検証し、改善する。</li> <li>・県職員研修所と引き続き委託契約を締結し、プロパー職員を各種研修(基本研修・専門研修)へ参加させる。また、公立大学協会が主催するセミナー・専門研修を受講させるとともに、職員が自主的・自発的に通信教育等を受講する場合は、経費の一部を助成する。</li> <li>・県立三大学、また北九州四大学による共同研修の実施について、引き続き検討する。</li> <li>・県立三大学経営管理部会議において、事務処理の共通化について引き続き検討する。</li> </ul>	1	<p>【平成28年度の実施状況】</p> <p>○事務職員の資質・能力の向上・育成のため、SDの実施や研修機会の確保・提供に努めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新規採用職員や本学へ新たに赴任した職員へのSDとして、大学法人化の経緯や第2期中期計画における実施状況等についてオリエンテーションを実施した。</li> <li>・大学機関別認証評価受審を機会に、大学の質保証の重要性や現在の大学の状況について研修を行った。</li> <li>・プロパー職員に対して、公立大学協会主催セミナーや県職員研修所の専門研修等に積極的に参加させた。また、通信教育を受講する際に、経費の一部助成を行った。</li> <li>・北九州四大学による共同研修の実施について、連携が進むよう検討を行った。</li> <li>・県立三大学による共同研修及び事務処理の共通化については、引き続き検討を行うこととした。</li> </ul>	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>		27																																						
		<p>(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)</p>																																												
		【自己評価の修正の有無】	(決定)	(理由)																																										
		【ウェイトの修正の有無】																																												
		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度 評価</th> <th colspan="2">自己評価</th> <th colspan="2">評価委員会</th> </tr> <tr> <th>評価</th> <th>ウェイト</th> <th>評価</th> <th>ウェイト</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>24</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>25</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>26</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>27</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>28</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>29</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>	年度 評価	自己評価		評価委員会		評価	ウェイト	評価	ウェイト	24					25					26					27					28					29					業務実績評価書の記載内容				
年度 評価	自己評価			評価委員会																																										
	評価	ウェイト	評価	ウェイト																																										
24																																														
25																																														
26																																														
27																																														
28																																														
29																																														

中期計画		平成28年度計画		ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号		
項目	実施事項	評価	理由								
2. 安全管理体制の整備・充実  1. 戦略的・自律的・大学の運営を支える安全管理体制の充実 2. 安心・安全の医療の提供	1【情報ネットワークや情報セキュリティの強化による情報マネジメントシステムの拡充】  ①情報セキュリティポリシーを策定する。 ②情報セキュリティの検証、教職員に対する広報・研修を行い、情報マネジメントの運用体制の充実を図る。	1-1	【平成28年度計画】 ○引き続き情報セキュリティポリシーの適切な運用を図るとともに、内容を検証する。 ○情報セキュリティポリシーについて、教職員に対して周知を図るとともに、その効果を検証する。 ○新たに導入される学内情報ネットワークについて更新等を速やかに行う。	1	【平成28年度の実施状況】 ○CIOである副理事長のもと、情報セキュリティポリシーの運用・検証を充実した。 ・引き続き、情報セキュリティポリシーを運用していく上で、具体的事例ごとに検証を行った。今年度、規定上の不具合は認められなかった。 ○情報セキュリティポリシーについて、教職員に対して周知に努めたところ、セキュリティ上の問題は生じず、周知の効果が認められた。 ・引き続き学内ホームページに関連規程、体制図や階層ごとの権限・責任一覧表等を掲載した。 ・情報セキュリティ上の脅威について、具体例を交えて教職員に注意喚起を行った。 ・情報処理専門職員の資質向上のため、関連団体や民間が主催するセミナーに積極的に参加させた。 ・事務局における情報の円滑な管理・運用のため、CIOのもと情報適正管理委員会を開催した。 ○学内情報ネットワークの更新等を速やかに行った。	B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】		28		
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)									
		【自己評価の修正の有無】				(決定)	(理由)				
		【ウエイトの修正の有無】									
		年度評価	自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容						
			評価	ウエイト	評価	ウエイト					
		24									
25											
26											
27											
28											
29											

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号								
項目	実施事項				評価	理由										
2	<b>【安心・安全の医療を提供するための体制の整備】</b> ① 附属病院診療機器更新の整備計画を策定する。 ② 診療情報管理体制を充実する。 ③ 医療情報システムを充実する。 ④ 医療安全に関する検証・対策を強化する。 ⑤ 医療従事者の技術向上等に向けた研修体制を拡充する。  ○達成目標 ・医療従事者の技術向上等に関する研修の実施：年2回	2-1	1	<b>【平成28年度の実施状況】</b> ○平成27年度に立ち上げた病院再生会議と連携して、附属病院における安心・安全の医療を提供するための体制整備を推進した。 ・病院会議において、附属病院診療機器更新の整備計画の策定に向けて継続して作業を行った。また、診療機器の管理について検討を行った。 ・病院会議において、診療情報管理士の配置に向けた作業を継続した。また、電子カルテ導入し、運用を開始した。 ・病院会議において、リスクマネジメント活動の強化に向け、医療安全管理室及び医療情報管理室の人員配置について検討を行った。 ・院内感染対策、医療事故防止及び薬剤安全に関する講習会を実施し、出席率の向上を目指した検討を行った。  ○目標実績 ・医療従事者の技術向上等に関する研修の実施：年2回	B	<b>【高く評価する点】</b>  <b>【実施(達成)できなかった点】</b>		29								
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)														
		【自己評価の修正の有無】							(決定)	(理由)						
		【ウエイトの修正の有無】														
		年度評価							自己評価 評価	ウエイト	評価委員会 評価	ウエイト	業務実績評価書の記載内容			
		24														
		25														
26																
27																
28																
29																

中期計画		平成28年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
項目	実施事項				評価	理由			
3. 教員個人業績評価の充実  1. 個人業績評価制度の適切な運用	1【個人業績評価制度の検証と適切な運用】  ①口腔保健学科教員に対応する個人業績評価制度を検討し、1学部2学科体制に適した運用方法を構築する。 ②個人業績評価に係る教員処遇方法を検証し、必要に応じて改善する。	1-1	1	【平成28年度の実施状況】 ○平成27年度の個人業績評価結果(S、A～Eの6区分による最終評価)を踏まえ、評価の低い教員(C以下)に対して、面談等の個人業績評価委員会活動を通じて、今後の研鑽、業務改善を促した。 ・個人業績評価検討部会において、評価対象者からの意見を踏まえ、評価項目毎の評点バランスを考慮し、項目の追加(教育、大学運営)を行った。 ・優れた教育を実践する教員の顕彰制度(ベストティーチャー賞)の本格実施に向け、個人業績評価委員会において選定基準を策定した。	B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】		30	
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)							
		【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)			
		【ウェイトの修正の有無】							
		年度評価	自己評価 評価	ウェイト	評価委員会 評価	ウェイト	業務実績評価書の記載内容		
		24							
25									
26									
27									
28									
29									

中期計画		平成28年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
項目	実施事項				評価	理由			
4. 附属病院の業務改善  1. 新たな診療体制の確立 2. 地域歯科医療連携体制の整備 3. 療養担当規則の徹底等、より適切な保険診療の推進	1 【診療科再編による診療体制の充実】	1-1 【平成28年度計画】 ○新たに配置した診療部長職を活用し、患者中心の診療体制と学修者中心の教育体制が共存できるような専門診療部と歯科診療部の体制を構築する。 ○学生診療への同意書の受諾率80%以上を維持し、歯科医療人育成病院としての視点で参加型臨床実習を検証する。 ○教員・医員・大学院生・研修医・学生の全てが医事システムを活用して診療科間の連携体制を構築する。	1	【平成28年度の実施状況】 ○患者中心の診療体制と学修者中心の教育体制の共存を図るため専門診療部と歯科診療部の体制を構築した。 ・病院の診療科を主に高度先進医療を提供する専門診療部と、主に教育の中核を担い包括歯科診療を担当する総合診療部に分ける診療体制を確立し、総合診療部においては、臨床研修医教育を担う第一総合診療部、学生教育を担う第二総合診療部、保存補綴系診療科が連携して診療を担当する第三総合診療部を構築した。 ・総合診療部において、患者の診療体制ならびに教育体制の一層の充実と整合性を図ることを目的として、包括歯科診療におけるクリニカル・パスを策定し、総合診療部全体で運用した。 ○平成26年度より学生診療への同意書を得るシステムを導入しているが、同意の受託率に関して検証を行った。 ・平成26年度より紹介状のない新患者の最初の窓口となる診断科にて、総合診療部が担当する新患者に対して、学生の診療参加型臨床実習(自験)への協力に対する意志の確認を同意書の署名を通して行っているが、平成28年度の同意の受託率は月別で71~96%の間を推移し、月平均受託率は87.9%と高い同意率を維持した。 ○教員・医員・大学院生・研修医・学生の全てが医事システムを活用して診療科間の連携体制の強化を図るため、新たに電子カルテシステムを導入し運用を開始した。 ・教員、医員、大学院生、研修医に加え、学生も新たに電子カルテ機能のもと、診療参加型臨床実習で担当している患者の予約管理を行い、指導教員との患者情報の共有を深めた。 ・診療科間の患者情報の共有を図るため、新たに患者プロファイリングシステムを搭載した医事システムを通じて情報共有し連携強化を開始した。	A	【高く評価する点】 外来部門の電子カルテ導入を第3期中期計画導入を前倒しし、導入することができた。平成29年度以降に教育、診療の充実に活かすことが可能となった。  【実施(達成)できなかった点】		31	
	(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)								
	【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)				
	【ウェイトの修正の有無】								
	年度評価	自己評価 評価	ウェイト	評価委員会 評価	ウェイト	業務実績評価書の記載内容			
	24								
25									
26									
27									
28									
29									

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
項目	実施事項				評価	理由			
2	【地域包括型歯科医療連携の機能の整備】 ①病診連携室の業務を拡充し、地域包括型歯科医療連携体制を整備する。	2-1	1	<p>【平成28年度の実施状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○病診連携室を通じて、地域包括型歯科医療連携体制を整備し、訪問歯科診療を行った。</li> <li>・下関北九州地区の地域関連病院とは年に3回の病院勤務医会を通して意見交換会を行った。さらに10施設で病院長、医療連携担当者と意見交換会あるいは面会を行った。また筑豊遠賀地区、山口県西部、大分県北部の地域医療関連病院とは手術支援などで連携を深めた。</li> <li>・厚生労働省指定の地域医療支援病院3施設とは、職員の派遣などで連携を図り、摂食嚥下リハビリテーション、口腔外科難症例手術支援、周術期口腔機能管理を行った。近隣の歯科医師会とは定期的な意見交換会の他、病院連携に関する講演会、病診連携のための情報提供(年2回)などを行い、連携の深化に努めた。</li> </ul> <p>○目標実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北九州市および近隣の歯科医師会との意見交換会の継続(3回/年)</li> <li>・開業医・病院歯科勤務医を対象とした医療連携研修会の継続(2回/年)</li> <li>・病態別緊急時対応の三次救急病院との連携構築を一部実施した</li> </ul>	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>		32	
		<p>(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)</p>							
		【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)			
		【ウエイトの修正の有無】							
		年度	自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容				
		評価	評価	ウエイト	評価	ウエイト			
24									
25									
26									
27									
28									
29									

中期計画		平成28年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号								
項目	実施事項				評価	理由										
3	<b>【療養担当規則をベースとした保険診療の推進】</b> ①電子カルテシステムの検討状況を踏まえ、診療記録の記載を充実する。 ②保険診療の理解を深化させるための研修を実施する。 ③診療報酬請求業務を充実させる。  ○達成目標 ・保険診療業務に関する研修：年12回	3-1	1	<b>【平成28年度の実施状況】</b> ○療養担当規則に則った保険診療の推進に努めた。 ・診療録の記載内容の適正化に向けて、医療部会員を増員し、診療科別に毎月診療録と診療報酬請求書について精査を行った。不適切な記載に関しては、診療担当医に対して個別指導も行った。 ・医療部会から指摘された点の改善策を提出させ、診療科内で周知徹底した。 ・保険診療業務に関するSDを4回実施した。  ○目標実績 ・保険診療業務に関する研修：年12回 ・保険診療に関する病院SD：年4回	B	<b>【高く評価する点】</b>  <b>【実施(達成)できなかった点】</b>		33								
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)														
		【自己評価の修正の有無】							(決定)	(理由)						
		【ウェイトの修正の有無】														
		年度評価							自己評価	評価委員会	業務実績評価書の記載内容					
									評価	ウェイト	評価	ウェイト				
		24														
		25														
		26														
		27														
28																
29																
		ウェイト総計	28年度					項目数計	28年度							
			9						9							
【ウェイト付けの理由】																
業務運営に関する特記事項																
(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)			【意見・コメント等】													

年度計画項目別評価

<p>中期目標 5. 財務</p>	<p>「経営者の視点に立って、法人の財政運営を行う。」</p> <p>大学は、その運営が公的資金に支えられていることを踏まえ、経営者の視点に立って、不断の経営努力を行う。                  収入については、教育研究活動等の活性化のため外部資金の獲得に積極的に取り組むなど、自己収入の増加に努める。                  経費については、適正執行に努めるとともに、業務の効率化や人員配置の見直しを推進する。                  附属病院については、教育研究機能の充実と医療サービスの向上に努めるとともに、経営の効率化を推進する。</p>
-----------------------	--

項目	実施事項	平成28年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号
					評価	理由		
1. 法人収入の確保 1. 外部資金の獲得	<p>【外部研究資金等の獲得】</p> <p>①科学研究費、受託研究費・共同研究費、奨学寄付金等の個人研究費に加え、大学として外部大型資金の確保を図る。</p> <p>○達成目標 科学研究費、受託研究費・共同研究費、奨学寄付金の獲得件数及び金額</p> <p>・科学研究費 60件 100,000千円(年間)                  ・受託・共同研究費 60件 100,000千円(第2期中期計画期間中)                  ・奨学寄付金 60件 50,000千円(第2期中期計画期間中)</p>	<p>1-1 【平成28年度計画】</p> <p>○個人研究費の獲得に努めるとともに、大学として組織的に外部資金の獲得を目指す。                  ・個人研究費については、高水準を維持する。                  ・外部資金についての情報収集を行い、獲得に向けた検討を組織的に行う。</p> <p>○達成目標                  ・科学研究費 件数 60件 金額 100,000千円                  ・受託・共同研究費件数 10件 金額 15,000千円                  ・奨学寄付金 件数 10件 金額 8,000千円</p>	1	<p>【平成28年度の実施状況】</p> <p>○外部資金獲得に積極的に取り組んだ結果、個人研究費については高水準を維持することができた。                  ○目標実績                  ・科学研究費 件数72件 金額123,920千円                  ・受託・共同研究費 件数6件 金額4,479千円                  ・奨学寄付金 件数12件 金額13,000千円</p>	B	<p>【高く評価する点】</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>	No.19「研究」	34
(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)								
【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)				
【ウェイトの修正の有無】								
					業務実績評価書の記載内容			
年度評価	自己評価 評価	ウェイト	評価委員会 評価	ウェイト				
24								
25								
26								
27								
28								
29								

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
項目	実施事項				評価	理由			
2. 運営経費の抑制 1. 業務の電子化・システム化による事務の省力化、人件費の抑制 2. 事務局業務の外部委託による人件費の抑制	1	1-1	1	【平成28年度の実施状況】 ○給与支給事務の外部委託を行うことで正確な給与支給を行うとともに職員の業務の軽減に繋がった。また、給与支給対象者等からのマイナンバー収集業務についても外部委託を行い職員の業務軽減に努めた。人事履歴管理を加味したシステム構築については引き続き検討することとした。 ○電子決裁システムに関する事務処理の共通化については引き続き検討することとした。	B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】		35	
	(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)								
	【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)				
	【ウエイトの修正の有無】								
	年度評価	自己評価 評価	ウエイト	評価委員会 評価	ウエイト	業務実績評価書の記載内容			
	24								
25									
26									
27									
28									
29									

中期計画		平成28年度計画	ウエイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号									
項目	実施事項				評価	理由											
3. 附属病院の収入の向上  1. 高次医療の提供 2. 先進医療及び自費診療の推進 3. 訪問歯科診療の推進	1 【地域包括型歯科診療連携体制に基づいた高次医療の提供による収入増】  ①地域の歯科医療機関との連携を積極的に進め、高次医療を提供することにより診療報酬の増を図る。  ○達成目標 ・かかりつけ歯科医等との地域連携パスの策定	1-1 【平成28年度計画】 ○地域の歯科および医科医療機関との連携を積極的に進め、高次医療を提供することにより診療報酬の増を図る。 ・がん周術期口腔医療向上のための地域がん拠点病院との連携を継続し、派遣病院および歯科医師派遣の増加を図る。 ・地域医療支援病院等の医科総合病院との病態別連携強化を図る。 ・新たに医療連携病院からの口腔ケア紹介患者の情報管理体制の構築を行う。 ・ホームページ上にダウンロード可能な患者情報提供書を掲載するなど紹介医の負担の軽減を図る。 ・継続して外来入院患者の紹介医および患者の情報管理を行う。	1	【平成28年度の実施状況】 ○歯科・医科医療機関との情報交換を行い、九州歯科大学附属病院の特徴である口腔がん、顎変形症、歯科矯正、インプラント歯科などの地域歯科医師会・九州歯科学会を通じて紹介を行った。 ・がん拠点病院への患者紹介数9症例し、再建を伴う腫瘍切除術は年間21症例施行した。 ・産業医科大学口腔外科、医科医療機関との患者紹介を継続し、九州歯科大学附属病院の医療の質の維持を行った。 ・医科総合病院との病態別連携強化(唇裂口唇裂患者の術前診察の実施)を行い、術後合併症対策の一環として開始した。 ・口腔ケアを含めて受け入れ患者受け入れ体制の強化として外来電子カルテ化の活用とともに患者受け入れの窓口の診断科の改変を行った。 ・ホームページ上にダウンロード可能な患者情報提供書を掲載した。 ・地域病診連携室において紹介者及び患者情報のデータベースの入力を継続した。	B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】		36									
									(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)								
									【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)				
									【ウエイトの修正の有無】								
									年度評価	自己評価 評価	ウエイト	評価委員会 評価	ウエイト	業務実績評価書の記載内容			
									24								
									25								
									26								
									27								
									28								
29																	

中期計画		平成28年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
項目	実施事項				評価	理由			
2	【先進医療及び自費診療の積極的推進による収入増】  ①先進医療の届出を積極的に進め、診療報酬等の収入増を図る。 ②地域住民に高度な医療を提供する自費診療を推進し、収入増を図る。  ○達成目標 ・先進医療の届出件数：第2期中期計画期間中を通じて2件(継続分1件+新規分1件)	2-1	1	【平成28年度の実施状況】 ○先進医療の届出を積極的に進め、一定の成果が得られた。 ・”歯周外科治療におけるバイオ・リジェネレーション法”を継続申請した。 ・”金属代替材料としてのグラスファイバーで補強された高強度のコンポジットレジンを用いた3ユニットブリッジ治療”を新規に申請した。 ○高度な医療を提供する自費診療を推進した。 ・前年度より外来の自費診療が730万円増えた。矯正歯科、インプラント科の自費収入が昨年同様堅調であった。  ○目標実績 ・先進医療の継続1件。新規1件の申請完了。	B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】		37	
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)							
		【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)			
		【ウェイトの修正の有無】							
		年度評価	自己評価 評価	自己評価 ウェイト	評価委員会 評価	評価委員会 ウェイト	業務実績評価書の記載内容		
		24							
		25							
26									
27									
28									
29									

中期計画		平成28年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
項目	実施事項				評価	理由			
3	【訪問歯科診療の促進による収入増】  ① 歯科診療所での対応が困難な患者に対し社会的要請の高まる訪問歯科診療を促進する。  ○ 達成目標 ・ 歯科診療所での対応困難な患者に対する訪問歯科診療及び訪問口腔衛生指導の実施回数：24回/年	3-1	1	【平成28年度の実施状況】 ○ 平成28年4月に「口腔保健・健康長寿推進センター」を設立し、「地域に在住する摂食嚥下障害患者に対するアプローチを行うための実践的教育」と題して、地域歯科医師会開業歯科医師8名に対して講義・実習を行った。また、受講者と地域に潜在する摂食嚥下障害患者に関する情報交換を行った。  ○ 歯科診療所での対応困難な患者に対する訪問歯科診療及び訪問口腔衛生指導の実施回数 60回/年、摂食嚥下障害患者への対応 8回/年	A	【高く評価する点】 地域歯科診療所での対応困難な患者に対する訪問歯科診療及び訪問口腔衛生指導の実施回数が目標を大きく上回った。 また、「口腔保健・健康長寿推進センター」を開設し地域歯科医師会開業歯科医師と地域に潜在する摂食嚥下障害患者に関する情報交換を行うことができた。  【実施(達成)できなかった点】		38	
		(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)							
		【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)			
		【ウェイトの修正の有無】							
		年度評価	自己評価 評価	ウェイト	評価委員会 評価	ウェイト	業務実績評価書の記載内容		
		24							
		25							
26									
27									
28									
29									
		ウェイト総計	28年度 5				項目数計	28年度 5	

【ウェイト付けの理由】

財務に関する特記事項

(評価委員会) 【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)	【意見・コメント等】	
--------------------------------------	------------	--

年度計画項目別評価

<p>中期目標 6. 評価及び情報公開</p>	<p>「評価を厳正に実施し、大学運営に反映する。また、大学情報を積極的に公開する。」</p> <p>(1)評価 教育・研究その他大学運営全般についての自己点検・評価を厳正に実施するとともに、福岡県公立大学法人評価委員会の評価及び認証評価機関の評価を、大学運営の改善に速やかに反映させる。</p> <p>(2)情報公開 学生や保護者等に対し適切かつ迅速に情報を提供するとともに、社会のニーズに適応した大学情報を積極的に公開し大学の存在感を高める。</p>
-----------------------------	--

項目	実施事項	平成28年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号							
					評価	理由									
<p>1. 外部評価の大学運営への反映</p> <p>1. 外部機関の評価結果の大学運営への反映</p> <p>2. 次期外部評価に向けた適切な対応</p>	<p>【適切な自己評価の実施及び外部評価の大学運営への反映】</p> <p>①県評価委員会の評価結果を教職員に周知し、法人運営の現状と課題に対する意識付けを行うとともに、評価の低い事項について改善に向けた取組を行う。</p> <p>②次期認証評価に向けた自己評価部会を立ち上げ、新たな評価基準に沿った自己評価を行うとともに、教職員や学生、卒業生に対するアンケートを継続的に実施する。</p> <p>③認証評価機関の評価を検証し、大学運営の改善すべき事項に対して速やかに対応する。</p>	<p>1-1 【平成28年度計画】</p> <p>○外部評価機関による認証評価の実施年であることから、機関別認証評価及び県評価委員会の評価結果を教職員に周知し、適切にフィードバックを行う。</p> <p>・機関別認証評価については、10項目の大学評価基準に関して自己評価を行い、書面調査、訪問調査に適切に対応する。</p> <p>・自己評価部会による教職員、学生及び卒業生に対するアンケート調査を継続して実施する。</p> <p>・機関別認証評価及び県評価委員会の評価結果を全学説明会で教職員に周知する。</p> <p>・評価の低い事項について改善策を早急に検討する。学内ガバナンス体制の再編を踏まえ、改善策を大学運営に反映する。</p>	<p>1</p>	<p>【平成28年度の実施状況】</p> <p>○前回受審(平成22年度)以降における学内組織(学部、大学院、附属機関)の見直し、九州歯科大学大学憲章の制定に伴う教育改編の内容を評価機関が示す各基準に的確に反映させ、認証評価に係る自己評価書を作成した。</p> <p>○自己評価部会が経年的に実施してきた教職員、学生及び卒業生に対するアンケート調査結果を自己評価書の根拠資料として活用するとともに、平成28年度も継続して調査を行った。</p> <p>○大学機関別認証評価及び大学機関別選択評価については、いずれも良好な評価結果を得ることができた。また、今回、外部評価機関から示された自己評価に係る多様な観点は、今後の自己評価活動において参考になることを確認できた。</p> <p>○平成27年度の県評価委員会の評価結果については、平成28年9月に開催された全学説明会において、理事長から、全教職員に説明するとともに周知を行った。</p> <p>○同年度の業務実績では国家試験の成績に課題があったことから、歯科医師国家試験の合格率改善に向け全学的に取組むことを学内で確認した。</p>	<p>A</p>	<p>【高く評価する点】</p> <p>大学改革支援・学位授与機構が実施する大学機関別認証評価及び大学機関別選択評価において、優れた評価結果を得ることができた。</p> <p>【実施(達成)できなかった点】</p>	<p>39</p>								
								<p>(評価委員会)</p> <p>【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)</p>							
								<p>【自己評価の修正の有無】 (決定) (理由)</p>							
								<p>【ウェイトの修正の有無】</p>							
								年度評価	自己評価 評価	評価委員会 ウェイト	業務実績評価書の記載内容				
								24							
25															
26															
27															
28															
29															

中期計画		平成28年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号								
項目	実施事項				評価	理由										
2. 全国唯一の公立歯科大学としてのブランドイメージの確立 1. 教育研究活動等の積極的な情報発信 2. 高校生向けの広報誌の発行及びITを活用した授業配信の実施 3. 百周年記念事業の活用	1【教育・研究活動情報及び研究実績の学外への積極的な発信】 ①大学の教育方針(アドミッションポリシー・カリキュラムポリシー・ディプロマポリシー)を広く学外に発信する。 ②本学の特色ある教育内容をホームページやQ-shidaiゼミで公開し、外に開かれた大学イメージを醸成する。 ③大学の成果をまとめた広報冊子を作り公開するほか、大学案内を刷新する。 ④教育研究活動情報公開制度に対応してホームページを充実する。	1-1【平成28年度計画】 ○大学の教育方針や教育研究活動を学外へ発信する。 ・前年度学長が定めた「九州歯科大学憲章」をより社会に向けて発信する。本憲章に基づき検証して修正されたアドミッションポリシー、カリキュラムポリシーおよびディプロマポリシーを発信する。 ・特色ある授業や研究活動をホームページやポスター、講演会などで公開するとともに、評価結果を検証する。 ・大学の業績等を大学案内等に掲載するなど内容を充実させる。 ・ホームページを精査し、より効率的に海外への教育研究活動情報を発信する。	1	【平成28年度の実施状況】 ○大学の教育方針や教育研究活動を学外への発信を行った。 ・「九州歯科大学憲章」に基づき、本学の教育方針をアウトカム基盤型教育に変更することに伴い修正された歯学科、口腔保健学科、大学院におけるそれぞれのアドミッションポリシー、カリキュラムポリシーおよびディプロマポリシーを作成した。英語版も作成し、海外への発信も開始した。 ・「歯大祭」、「4大学スクラム講座」、「ふくおか版CCRC」などの市民公開講座を通して、本学の特色ある授業や研究活動を外部に公開できた。 ・ホームページを企画広報班を中心に常時精査し、随時教育研究活動情報の更新を行った。	B	【高く評価する点】  【実施(達成)できなかった点】		40								
									(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)							
									【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)			
									【ウェイトの修正の有無】							
									年度評価	自己評価 評価	評価委員会 ウェイト	自己評価 評価	評価委員会 ウェイト	業務実績評価書の記載内容		
24																
25																
26																
27																
28																
29																

中期計画		平成28年度計画	ウェイト	計画の実施状況等	自己評価		データ番号	通し番号	
項目	実施事項				評価	理由			
2	【百周年記念事業を活用した大学情報の発信】 ①広報誌、大学案内及びホームページ等すべての広報媒体を活用し、創立百周年を情報発信する。 ②大学の主要事業について、可能なものは「百周年記念事業」を前面に出して実施する。 ③百周年記念の一環として行う各種事業や新たに作成する記念誌等において大学情報を広く発信する。	2-1 【平成28年度計画】 ○九州歯科大学基金を利用し、九州歯科大学のブランドイメージをアジアをはじめ諸外国に発信する。 ・学術交流締結の推進ならびに前年度から開始した海外の大学との本格的な教育・研究連携を検証し、より充実させる。 ・アジアおよび欧米の大学とのさらなる学術交流締結を推進する。 ・学生国際交流活動推進プログラムの運用組織を強化する。 ・医療技術普及活動・歯科医療人リカレント教育活動の支援を継続して行う。	1	【平成28年度の実施状況】 ○九州歯科大学基金により行った学生海外短期派遣プログラムを実施した。 ・歯学科(タイ:シーナカリンウィロート大学、9月3日～10日)4年次生1名、3年次生2名、引率2名。プログラム内容は、大学、歴史博物館、中央図書館、病院見学のほか、年1回巡回開催されているCommunity dental serviceに参加し、血圧測定やブラッシング指導を実施した。 ・口腔保健学科(台湾:高雄医科大学、9月17日～23日)3年次生2名引率2名、プログラム内容は、高雄医科大学における講義の聴講ほか、本学の学生・大学院生による英語でのプレゼン(自己紹介の他に、九歯大の概要や日本の歯科衛生士業務を説明)および本学教員が臨床実習及び感染対策について英語による講義を実施。 ○海外連携大学からの学生の受入れを行った。 ・シーナカリンウィロート大学(タイ)からの受け入れ(10月9日～23日歯学部6年次生2名。本館及び病院棟見学、学長と会食、学生および教員との交流。 ・高雄医科大学口腔保健学科(台湾)からの受け入れ(6月27日～7日1日)口腔医学院口腔衛生学系4年次生2名、引率教員2名。附属病院見学、ランチミーティング、摂食嚥下リハビリテーション実習(本学実習室) ・台北医科大学歯学科(台湾)からの受け入れ(8月29日～9月9日)歯学部4年次生4名、引率1名。本館及び病院棟見学、学長と会食、学生および教員との交流。 ・台北医科大学口腔保健学科(台湾)からの受け入れ(8月29日～9月9日)歯学部4年次生3名、引率2名。歯科材料企業、特別養護老人ホームの見学、本館及び病院棟見学、学生および教員との交流。 ○大学院海外派遣プログラム・トライアル ・ブリティッシュ コロンビア大学(カナダ)8月2日～3日、本学大学院2年次生1名。大学見学、研究プレゼンテーションと質疑応答。 ・ミャンマー:ネピドー地区、8月7日～16日、本学大学院1年次生1名。ネピドー学校での口腔検診及びブラッシング指導。	A	【高く評価する点】 九州歯科大学基金を利用して学生国際交流活動推進プログラムの運用支援を行うことが可能となり、九州歯科大学のブランドイメージを諸外国に発信するとともに学術交流締結を行った海外の大学との教育・研究連携をスタートすることができた。 また、今年度は本学大学院生の短期海外派遣プログラムのトライアルをスタートさせ、将来的な本実施の準備を開始した。  【実施(達成)できなかった点】		41	
(評価委員会) 【報告内容に関して確認が必要な事項】(事務局補足事項)									
【自己評価の修正の有無】			(決定)	(理由)					
【ウェイトの修正の有無】									
年度評価	自己評価評価	ウェイト	評価委員会評価	ウェイト	業務実績評価書の記載内容				
24									
25									
26									
27									
28									
29									
ウェイト総計			28年度	3	項目数計			28年度	3

【ウェイト付けの理由】

評価及び情報公開に関する特記事項

(評価委員会)  
【報告内容に関して確認した事項】(事務局補足事項)

【意見・コメント等】

## 特記事項

中期計画に記載している実施内容以外で、特筆すべき事項があれば、簡潔に記載してください。

※「教育」、「研究」、「社会貢献」、「業務運営」、「財務」、「評価及び情報公開」の枠組みにとらわれなくとも構いませんが、関連する通し番号がある場合は必ず記載してください。

なお、記載にあたっては、取組内容だけでなく、取組みの成果や効果等があれば、併せて記載してください。

平成28年度 業務実績報告書(様式)

特記事項	関連する 通し番号	評価委員会	
		【報告内容に関して確認した事項】 (事務局補足事項)	【意見・コメント等】
<p>○口腔保健・健康長寿推進センター 福岡県の高齢者の割合は2015年に26.4%、2040年には35.3%になると推定されている中で、高齢者には摂食嚥下障害による誤嚥性肺炎等が多くみられる。また、全身疾患がある患者は歯科治療における全身的偶発症のリスクが高い。しかしながら、これらの治療やケアを行う専門人材は極めて少ない状況である。この現状を踏まえ、本学では、全国初となる摂食嚥下分野等の歯科口腔保健に関する先進的教育・研究拠点として、「口腔保健・健康長寿推進センター」を設置した。センターでは、歯科医師等を対象とした摂食嚥下障害や全身疾患がある患者の口腔機能向上に関する実践的教育等を実施した。</p>	20.24.38		

その他中期計画において定める事項

中期計画	年度計画			自己評価	
	計画	実績			
I 収支計画予算及び資金計画予算	1. 収支計画予算	(百万円)			
		区分	予算額(a)	決算額(b)	差額 (b)-(a)
平成2		費用の部	3,385	3,337	▲ 48
		経常費用	3,385	3,335	▲ 49
		業務費	3,067	3,025	▲ 41
		教育研究経費	388	367	▲ 20
		診療経費	641	651	10
		受託研究費等	17	5	▲ 12
		人件費	2,019	2,000	▲ 19
		一般管理費	314	307	▲ 6
		(減価償却費 再掲)	149	139	▲ 10
		財務費用	2	2	0
		雑損	—	0	0
		臨時損失	—	1	1
		収益の部	3,395	3,372	▲ 22
		経常収益	3,395	3,371	▲ 23
		運営費交付金収益	1,551	1,582	30
		授業料収益	403	391	▲ 11
		入学金収益	61	65	3
		検定料収益	10	10	0
		その他業務収益	—	0	0
		附属病院収益	1,078	1,072	▲ 6
		受託研究等収益	10	6	▲ 4
		補助金等収益	125	86	▲ 39
		寄附金収益	12	23	11
		資産見返運営費交付金等戻入	11	8	▲ 3
		資産見返補助金等戻入	51	51	0
		資産見返寄附金戻入	9	10	0
		資産見返物品受贈額戻入	12	12	0
	財務収益	0	0	0	
	雑益	56	51	▲ 4	
	臨時利益	—	1	1	
	当期純利益	9	35	25	
	当期総利益	9	35	25	

2. 資金計画予算	(百万円)			
	区分	予算額(a)	決算額(b)	差額 (b)-(a)
	資金支出	3,295	3,236	▲ 59
	業務活動による支出	3,233	3,168	▲ 65
	投資活動による支出	7	26	19
	財務活動による支出	54	41	▲ 13
	資金収入	3,313	3,285	▲ 28
	業務活動による収入	3,313	3,285	▲ 28
	運営費交付金収入	1,555	1,575	20
	授業料収入	403	391	▲ 11
	入学金収入	61	65	3
	検定料収入	10	10	0
	附属病院収入	1,078	1,071	▲ 7
	受託研究等収入	10	4	▲ 6
	補助金等収入	125	91	▲ 33
	寄附金収入	12	22	10
	その他の収入	56	52	▲ 3
	投資活動による収入	0	0	0
	財務活動による収入	—	—	—
II 短期借入金の限度額	1 短期借入金の限度額 3億円 2 想定される理由 運営費交付金の交付時期と資金需要の期間差及び事故の発生等により緊急に必要となる対策費として借り入れすること。		該当なし	—
III 重要な財産を譲渡し、又は担保に供する計画	該当なし		該当なし	—
IV 剰余金の使途	決算において剰余金が発生した場合は、教育研究及び診療の質の向上並びに組織運営の改善に充てる。		該当なし	—
V その他設立団体の規則で定める業務運営に関する事項	1 法第40条第4項の規定により業務の財源に充てることができる積立金の処分に関する計画 なし 2 その他法人の業務に関し必要な事項 なし		該当なし	—